



丸一金属工業株式会社

余談 2 年目

ver.2.04

著作 吉村郁祐

丸一金属工業(株) 会議資料より「余談」タイトル一覧

平成 19 年 9 月～平成 20 年 8 月の 12 ヶ月分

- 第 52 話 平成 19 年 9 月 4 日 ● スマートウォーター ～犯罪者が恐れる賢い水～
- 第 53 話 平成 19 年 9 月 11 日 ● 究極の注射針
- 第 54 話 平成 19 年 9 月 18 日 ● どこか郷愁を誘う食べ物
- 第 55 話 平成 19 年 9 月 25 日 ● 放送業界、マッチポンプの怪 ～この業界は日本をどうしたいのか？～ (私見)
- 第 56 話 平成 19 年 10 月 2 日 ● 秋祭りたけなわです
- 第 57 話 平成 19 年 10 月 9 日 ● 地球の運命を変える隕石の話 (その 1 / 2)
- 第 58 話 平成 19 年 10 月 16 日 ● 地球の運命を変える隕石の話 (その 2 / 2)
- 第 59 話 平成 19 年 10 月 23 日 ● 「人」はいかにして「人」になったか？
- 第 60 話 平成 19 年 10 月 30 日 ● 「しづかなる 力満ちゆき バッタ飛ぶ」
- 第 61 話 平成 19 年 11 月 6 日 ● 大坂難波はネギ畑
- おまけ** 原材料高騰に関する大阪府下の中小企業の状況
- 第 62 話 平成 19 年 11 月 13 日 ● 「かんとだき (関東煮)」よもやま話
- 第 63 話 平成 19 年 11 月 20 日 ● クリスマスはなんで「X」マス「なんやろ？」
- 第 64 話 平成 19 年 11 月 27 日 ● 飽から良へ (質への転換) (私見)
- 第 65 話 平成 19 年 12 月 4 日 ● 「門松」よもやま話
- 第 66 話 平成 19 年 12 月 11 日 ● あなた好みの お犬になるゆわ～♪ ～犬はいかにして犬になったか？～
- 第 67 話 平成 19 年 12 月 18 日 ● 偽装の根幹とは？ (私見)
- 第 68 話 平成 19 年 12 月 25 日 ● 身近な漢字で難しい苗字 (名字) その 2
- 第 69 話 平成 20 年 1 月 8 日 ● 「干支」よもやま話
- 第 70 話 平成 20 年 1 月 15 日 ● 100 円ライター秘話
- 第 71 話 平成 20 年 1 月 22 日 ● 中国に渡る日本の農作物
- 第 72 話 平成 20 年 1 月 29 日 ● 北海道における金融大実験？ ～私見～
- 第 73 話 平成 20 年 2 月 5 日 ● うるう年よもやま話
- 緊急おまけ** 凜とした緊張感の薄れた私たち ～中国製ギョーザ禍に見えるもの～
- 第 74 話 平成 20 年 2 月 12 日 ● 寒い時期には・・・

第75話 平成20年2月19日●大阪、ことばの文化

おまけ 底知れぬ国

第76話 平成20年2月26日●お犬さまの再教育では飼い主もお勉強～犬の再教育が示唆するもの～(私見)

おまけ 自転車業界の好機と捉えられるか?

第77話 平成20年3月4日●アテらは^{ひらのデショウ}平野出生の有名人 ～大阪・平野区出身の有名人達～

おまけ 活かされないマニュアルや最新鋭

第78話 平成20年3月11日●ノーラン・ライアンのピッチャーズバイブル

おまけ ウイルス

第79話 平成20年3月18日●意外な校則!？ ～校則とは誰のためのもの?～

第80話 平成20年3月25日●政治屋と腐れ官僚 その1 怪人政治屋さん (私見)

第81話 平成20年4月1日●政治屋と腐れ官僚 その2 官僚達のカリバニズム(人食い儀式) (私見)

第82話 平成20年4月7日●チャールズ・ブロンソンのちょっといい話

第83話 平成20年4月15日●心通わせる人と馬達の話

第84話 平成20年4月22日●^{おのおのがた}各々方、油断めされるなけれっ!! 裁判の真偽と正義とは?

第85話 平成20年4月30日●「小皇帝」と「愛国教育」 ～中国の内憂(内なる悩み)～

第86話 平成20年5月8日●シャープの選択 ～千里から天理へ～

おまけ 偶然のパンダか?

第87話 平成20年5月13日●イースター島に見る小地球 ～イースター島の悲劇に学ぶこと～

おまけ 自然の慟哭が示唆するもの

第88話 平成20年5月21日●プリン体と痛風の話

おまけ 中国上海自転車ショーへ行かれた方の情報

第89話 平成20年5月27日●自分さえ良ければ ～判断基準の変化(曖昧化)とモラルの崩壊～(私見)

おまけ 電動自転車情報

第90話 平成20年6月3日●サイダーよもやま話

第91話 平成20年6月10日●免疫力よもやま話

おまけ 原油高による社会的損失

第92話 平成20年6月17日●京都祇園さんは舶来の祭り?平野郷のまつりとも親戚なん?

おまけ 熱中症の話(大阪労働基準監督署の「基準月間」誌より要約)

第93話 平成20年6月24日●漁業休業から見える日本の現状と将来 ～私見～

第94話 平成20年7月1日●^{とうがん}冬瓜への挑戦 ～神奈川県三浦の冬瓜～

第95話 平成20年7月8日●うなぎよもやま話・・・など

第96話 平成20年7月15日●昭和33年の出来事 ～人生50年から～

第97話 平成20年7月22日●使いきり予算とばらまき行政 その1 ～行政墮落の根源～ (私見)

第98話 平成20年7月29日●使いきり予算とばらまき行政 その2～タカリ状況からの脱却が出来るか～(私見)

おまけ ある公務員のお気楽日常

おまけ 日銀の景気予測と日本のGDPの現状と今後 ～私見含む～

おまけ 「日本脳炎」に注意を

第 99 話 平成 20 年 8 月 5 日 ●お年玉よもやま話！？

おまけ 官僚の傲慢 ～「民」が作り上げる思い上がり～

おまけ 携帯電話の電池残量は？

余談 100 話目の前に

第 100 話 平成 20 年 8 月 19 日 ●復活原稿 1 いつの間にかすりかわった話～うそつき行政～

(平成 19 年夏前予定だった没原稿)

第 101 話 平成 20 年 8 月 26 日 ●復活原稿 2 ワケ有り価格 ～安いものには訳がある安すぎるものにも訳がある～ (平成 19 年春予定だった没原稿)

おまけ 「余談」 3 年目

全体研修の講義資料 人に良いものは、本当に良いのか？ (平成 20 年 5 月 23 日講義分)

第 52 話 平成 19 年 9 月 4 日

● スマートウォーター ～犯罪者が恐れる賢い水～

もうそろそろ暑い季節も終わりに近づいてきましたが犯罪者達の背筋が寒くなる水の話をも一つ。イギリスに犯罪者を割り出すスマートウォーターと言う不思議な液体があります。これを開発した人は英国の元警察の幹部捜査官で、逮捕した窃盗犯が証拠不十分で無罪となる事に苛立ちを感じ、その開発に着手したと言う代物です。窃盗犯が有罪となるためには警察官の経験による直感では証拠にならず、科学的に証明できる証拠をいかに犯人側に残せるかが課題だったのです。

スマートウォーターには科学捜査用に警察に登録されたの固有の識別番号(“S I N”と言うそうです)が顕微鏡レベルでしか見えない小さい文字で書き込まれた板状の微粒子が多数入っており、それを吹き付けられた製品を盗むと、その盗品に塗られたスマートウォーターの S I N を調べればそれが盗品で元の持ち主が誰かを証明出来るのです。また、その盗品に触れる事により犯人にその S I N 微粒子が付着し、それが検出されると、その犯罪に関わった可能性が証明されるのです。また、犯人に直接吹きかける事もあるようです。S I N は現在 100 億通りの組み合わせが可能で、番号が 1 回限りの使用でも十分識別番号に余裕があるようになっているとの事です。また付着した液体は皮膚や衣服に何ヵ月も残り、犯罪者が除去することは事実上不可能なのだそうです。また、液体自身は紫外線を当てると蛍光する特殊なもので、これも容易には落とせないそうです。と言う訳で紫外線を当てただけでまずスマートウォーターが使われているかどうかも即座に判るわけです。

たとえば腕時計を盗んだ場合、犯人は液体をなんとか落とそうとしても微粒子を一つ残らず除去しなければならず、それはおそらく不可能だということです。イギリスでの押し込みなどの賊の件数はここ 10 年で最も少なくなり、都市によっては、窃盗、強盗などが過去の最高件数の 15% までに減少した都市もあるそうです。これには家財や車両を特定するための、DNA に匹敵する識別情報を誇るスマートウォーターのおかげなのでしょう。日本でも警察官不足と言われている折、将来、犯罪捜査の迅速化と犯罪の抑止を目指して普及するかも知れません。色んな犯罪対策に応用が利きそうですしね。

また、逆を言えば簡単に犯人に仕立てられる罠に利用されたり冤罪になる可能性もあってちょっと怖いお水ですけどオ・・・(^_^;

第53話 平成19年 9月11日

● 究極の注射針

東京の墨田区に、世界的に有名な^{れいさい}零細企業があります。従業員は6名程度。岡野工業と言います。業種は金属プレス加工で、一躍有名になったのが、携帯電話の電池の小型化です。もともとはソニーのウォークマン用に開発された技術ですが携帯電話に転用されました。

それまでの技術では弁当箱に板のフタをかぶせるような形でフタと箱を熔接し、電池を封印し、液漏れが無いようにしていましたが、いかんせん熔接部分が電池の成分で^{ふしよく}腐食しやすく液漏れを起こし、寿命が短く小型化が難しいとされていました。そこで、この会社は液漏れによる事故を防ぐため、その部品は均一の厚みの金属板、とりわけ薄く割れやすいステンレスの深〜い絞り加工で実現しました。マジックインキの胴部分はアルミですが、その作り方に通ずる部分があります。それは、かつて、ジッポーのオイルライターのケースを作っていた技術が活きたと聞きます。その技術は金型技術もさることながら、加工油を混合し、難しい加工を独自の方法で実現しました。それが、携帯電話を始めとする電子機器の小型、軽量化の起爆剤となったのです。

しかしながら、岡野工業はいとも簡単にその技術を売ってしまい次の技術開発に取り組みました。それが痛くない究極に細い注射針なのです。

その針とは、先端が蚊の針とほぼ同じ外径0.02mm、内径が0.008mm。根元は直径0.35mmと先端がすぼんだ形になっています。

それまでの細い注射針の一般的な規格の最小が外径0.4mm程度、内径0.2mm程度なのを見ると、いかに細いかがわかります。

専門の学者にも不可能と言われたその加工を、ステンレス素材のプレス加工で実現させたのです。これは医療機器会社のテルモ（だったと思います）が依頼し実現したのですが、同社に依頼するまでに100社以上に「企画」を持ち込んだものの、技術的に不可能と学者さんを含めすべて断られたらしいのです。

この細さのお陰で、^き刺しても痛くない究極の注射針が実現したのです。

だれも手を出さなかった、出せなかった技術に挑戦し実現させるその情熱と知恵はうらやましい限りですでも、一般の注射針は通常の規格が主流でまだまだ痛いので^{きら}嫌いですわ〜（x x；

第54話 2007年 9月18日

● どこか郷愁を誘う食べもの

食欲の秋が近づきました。と言うわけで、ちょっと懐かしさを感じられるかな?と言う食べ物を二つ。

20数年前の昔まで近鉄百貨店阿倍野店の下にある北側の道路に面した店舗の1つに「パルナス」と言う洋菓子（ロシア菓子）店があったと記憶しています。そこには、私が幼い頃、親に阿倍野に連れていってもらった時には必ず買ってもらったものがあります。「パルナス」には、ケーキやクッキーなどさまざまなお菓子があったのですが店頭で揚げている「ピロシキ」という揚げ調理パンのようなお菓子が大好きでした。確かパンのような衣の中に味付けしたひき肉とゆで卵を細かく切ったものなどを混ぜ合わせた具が入っていて、衣と具の組み合わせがとてもおいしい印象が残っています。それ以外のそこのお菓子はまったく興味がありませんでした。いつの間にかその店も無くなりここ数十年口にしていません。パルナスは昔ロシア風の独特で少し哀愁漂う曲を使って宣伝をしていたのを記憶しています。しかしながらその会社は数年前、少子化を見越し廃業したのだそうで、それを知った時は非常に残念に思いました。ところが最近JR尼崎駅のすぐそばでその味を継承している「モンパルナス」と言う「旧パルナス」の流れを汲んで営業を続けているお

店があると知りました。そこでは私の大好きな「ピロシキ」も売っているとの事です。いつかは行って見たいものです。

ところで滋賀県の湖北の東側に木之本町と言う小さな町があり、創業約50年になる「つるや」と言うパン屋さんがあるのですが、そこに創業以来のヒット商品があるそうです。「つるやのサラダパン」と言うものでコッペパンにマヨネーズ和えのサラダが挟んであるのだそうです。「なんや普通やんか」と言うなかれ、そのサラダの野菜は「タクアンのみじん切り」なのだそうです。発売当初そのサラダはキャベツ主体で時間が経つとキャベツの水分が染み出てきてヌルヌル、ベチョベチョになり味が落ちてしまう状態でした。そこで当時の店主はキャベツの代わりにタクアンの千切りを入れたところ水分も出ず、他に無い風味の商品となり人気が出たそうです。発売当初の具がキャベツだったので具がタクアンに替わっても商品名は「サラダパン」のままだそうです。時代と共に微妙に味を変えつつ現在も毎日売り切れる程支持を得ているのだそうです。「野菜サラダは水分がでてしまうもの」と言う常識に対し、発想を転換し試行錯誤の結果出来たものでしょう。どこか懐かしい味がすると聞いたことがあります。ちなみに1個105円だそうです、きっと地元で根付いた人気パンなのでしょうね。
いっぺん食べて見たいっ！(^Q^)/

第55話 平成19年9月25日

●放送業界、マッチポンプの怪 ～この業界は日本をどうしたいのか？～ (私見)

マッチポンプとは「わざと火を付け、火をつけた本人が自分の手柄の如くポンプで消化し周囲から感謝されるように仕向ける事」と解釈しています。

さて、テレビ業界への印象として、取材の際には「取材してやってる」、また、取材を受けた人の事を「放送してやっている」という傲慢な感覚と姿勢を持っているのを感じる事が何度かありました。

また、「コメンテーター」なる珍妙な出演者達がしたり顔で論評をしているのですが、時々聞くに堪えない場合もあります。もちろん、しごく当たり前な事を言っているのも多いのですが、「放送業界や出演してる者は横断歩道を信号無視で渡った事が無いんか？それ程きちっと何でもやっとなか？聖人君子か？」と感じてしまう事があります。批判(攻撃)は得意なくせに、いざ責められると逃げたり自分のケツを拭けないええかげんで勉強不足、資質不足の場面も見受けられます。彼らの中には目の前のモニターに目線が行って、自分の映り栄えに心ここにあらずで喋っている方も見受けられますし、現場取材の際「雑談で喋っていた事と放送で喋った事が正反対やっただ〜」って教えてくれた方もおりました。

社会風潮が悪い方へ行く中、それらを問題視し真剣に採り上げる番組が有る一方、一部のバラエティ番組では司会者が出演者の欠点？を突付いて笑いを誘う。また出演者が嫌がっている事を平気やり、低俗におもしろさを演出したりするのを見るにつけ、この変な放送姿勢には大いに疑問を持ちます。程度ものなのでしょうか？

この前、ある待合室のテレビで見たのですが、出演者達の控え室に無断で侵入し化粧道具入れをあさり中の道具の一つを舌で舐めている場面を見せ彼女達が不快感をあらわにしているのを見て皆が笑っているという低俗な場面がありました。少なくとも事前の打ち合わせがあったと「信じたい」のですが、見るに耐えない不快な場面です。無断で人のもののにいたずらして笑いを取る行為、出演者をいじめて笑うなどの演出はまさにいじめや人の嫌がる事を「正当化」もしくは「推奨」しているようにしか思えないものです。「これはテレビ番組の中での事で、真似はしないでね」と言っても、視聴者の中には程度が追いつかず演出と現実の区別や善悪の判断が出来ない人もいるのではないのでしょうか？

また、普段ずけずけと物を言う批判を売り物にしている司会者が、実力があっても？言葉の使い方を知らない粗暴な未成年のボクサーに対してはヘーコラしている姿はみっともなく矛盾が見えます。その放送局が支援している事情なのでしょうが、それではその司会者が普段批判している姿勢は何なのだろうか？視聴者が溜飲を下げるような事を喋り、片や放送局が支援しておれば変な人であっても批判を抑え、迎合までしているのを見るとしよせん出演料を稼ぐ為の方便やねんな？とってしまいます。その人がいくら自らの「庶民感覚」を謳ったところで年収数億円が続けばその感覚を持ち続けられる事はまず難しい事でしょう。奇特にも出演料収入の大部分を寄付する清貧さがあれば少しは違うのでしょうか・・・ただただ、どう喋れば視聴者が喜び、視聴者を騙くらかして味方に付け、さも力がある様に見せ掛ける方法を熟知している職業人（プロ）であるだけなのでしょう。だから吠えるばかりで何の変革もできないし、仮に何かが良い方向になれば自分や番組の手柄にする。放送中にある話題に怒っていても次の話題になると不自然なほど冷静になれると言う不思議（だからプロなのかも）・・・そんな訳で放送・報道姿勢には一貫性を感じられません。「報道・討論」と「バラエティ」は別もので視聴者層も違うなどの言い逃れは限界があります。健康の為の薬を売りつつ健康に良くないお酒やスナック菓子を売っている薬屋（＝ドラッグストア）のようなものなのでしょう。視聴率至上主義と言う迎合の魔物は、いったい日本をどうしたいのか？

悪しき風潮を推進？しつつ、方や悪しき風潮を正さねばならないと言っているという正にマッチポンプやな、と感じるのは私だけだろうか？・・・と言いつつ私も我が振りなおさねば・・・（^^；

放送の持つ力は世論や風潮を形成できるほど強大です。放送局はそれを謙虚に自覚し放送姿勢に反映させる。また、私達は惑わされず、騙されず、何が本質なのか、何を排除しなくてはならないのかを見抜く目を養う事が大切なのでしょうね。

第56話 平成19年10月2日

● 秋祭りたけなわです

大阪の近辺では、10月に入り「祭礼のため通行規制」などの看板が目につくようになりました。大阪では、だんじりを始め布団太鼓などの代表的な山車が繰り出され、賑やかな祭りの風景が繰り広げられます。さまざまな大きさがある山車ですが、それぞれの地区の通巾や地区の財力などで山車の大体の大きさが選ばれたようです。だんじりについては、大和川を挟んで北側、即ち大阪市内側のだんじりは「上だんじり」もしくは「大阪、住吉型」、南側、即ち泉州側は「下だんじり」もしくは「泉州型」と呼ばれ外観は一見似ていますが構造や寸法比率がそれぞれに違います。有名な“やりまわし”においては“万が一”の場合、人が挟まれにくい構造となっています。大昔は、道路の舗装など無かったので遣りまわしも今ほど速度を上げられなかったのは容易に想像できますが、速度が出るようになりその構造もだんじり大工の工夫で進化しているのでしょう。いまは、だんじり大工の集約化で「上」と「下」の構造や寸法比率が混ざりつつあり少しさびしい部分を感じます。

さて大阪市内の夏祭りが「悪霊退散」が中心なのに対し、秋祭りは豊作などを祝う「五穀豊穰」「大漁」が主旨となる訳ですが、山車の掛け声でそれが顕著に見られるのが堺の百舌鳥八幡神社の布団太鼓です。「ペーラ、ペーラ」という掛け声も力強く石の階段で重たい山車を担ぐのです。その「ペーラ」とは漢字で「米良」と書くのだそうで、まさに「良い米」が収穫出来た事への神への感謝の掛け声とされます。

これから、9月の平野部から始まる秋祭りは、秋の深まりと共に山の手（高い場所）に移り、11月まであちらこちらで賑わいます。

また、世界各国でも「収穫祭」があるのはテレビでも見られる事があるでしょう。最近外国から“輸入”

されてきた「ハロウィーン」はアメリカの「収穫感謝祭」で、かぼちゃをくりぬいた“提灯”が日本のお店でも飾られるようになりました。ちょうど日本の“お盆”と“収穫感謝”を足したみたいなものでしょうか？

収穫に対する感謝の念は、食べ物に対する感謝の念でもあると思います。私達も「当たり前のように食べる」のでは無く「食べ物にありつける幸せ」を忘れてはならないなと感じます。日本は、食料輸入で食べ物にありついている国です。輸入が無くなれば今の食の豊かさは、けし飛んでしまいます。それぞれの農産国が昨今の地球温暖化で生産量などが減れば優先的に自国の消費に回すでしょう。日本も、食糧自給率をふやさねば・・・秋祭りからこんな話になってしてもエ～（^^）；

第57話 平成19年 10月 9日

● 地球の運命を変える隕石の話（その1／2）

夜の空を眺めて「あっ、流れ星！」と思わず声を上げた事がある方もおられるでしょう。その流れ星は周知の如く小さな隕石が地球に落下する際の摩擦熱による発光なのですね。宇宙はビッグバンと言われる宇宙の「卵」の大爆発が137億年程前に起こったのが始まりとされる説が有力です。その「卵」の成分が爆発で放出され、さまざまな元素となり、自然の摂理や物理的な原則に基づき偶然が重なって星や星雲など私たちが知ることで宇宙の構造が形成されてきたのです。しかしながらその爆発による宇宙の膨張は今も続いており、現に地球がある銀河系も秒速13万kmで移動しているんですって～

さて、以前「生きている地球」でも書きましたように、星や小惑星はお互いにぶつかったりして砕け、それが再び宇宙空間にさまよい、あるものは重力の影響を受けて彗星になったり惑星に捉われたりと予測がつかない動きをします。偶然にも地球に到達した小さな塊が地球大気の摩擦で燃え、目に見えるものは「流れ星」となり、さらに小さいものは人知れず塵となってしまうのです。平均直径120m以下の隕石ならば、地上に到達せず燃え尽きてしまうとされますが、たま～に地上まで到達し話題になりますね。過日も南米に落ちてガスが発生し、被害があったなどと言う事がありました。隕石は地球に到達する際に地球の引力によってすさまじい速度に達しています。月が出来たのも、超巨大隕石の衝突により出来たと言うのが有力な説とされるのは以前にも書いた通りです。

さて、約6700万年前に現在につながる地球の運命を変えた隕石がありました。それは直径10Km、重量1兆トンに達する巨大なもので、落下速度は音速の40倍（秒速13.6Km）という凄まじい速度で北米と南米大陸の間にあるユカタン半島の付近で地球に突き刺さるように衝突し、そのエネルギーは衝突後の大爆発となって現われました。その衝突で発生した地震はマグニチュード12～14（数字が「1」上がる毎に1000倍の地震エネルギー）、津波の高さは1000mに達したと言う事でも凄まじさが想像できます。ちなみに2004年12月のスマトラ大地震での津波は20mだったそうですが、それと比べてもいかに凄まじいかがわかります。また1990年代に「シューメーカーレビー彗星」と言う複数の塊で構成された彗星が木星に衝突したニュースを覚えておられるでしょうか？その彗星が地球と衝突すれば、地球は一瞬にして宇宙の藻屑となってしまうほどの規模だったのです。ちなみに木星は直径で地球の約11倍あるガスの塊でできた星とされます。その彗星が、吸い込まれるように木星に取り込まれてゆく映像は迫力のあるものであると同時に「もし地球だったら」と想像すると恐ろしい光景でした。

参考：直径が2Km程度の隕石ならば津波の高さは200mと推定されるそうです。

第58話 平成19年 10月16日

● 地球の運命を変える隕石の話 (その2/2)

さて、隕石は衝突時の高温の爆熱もさることながら、空中に飛散、蒸発した隕石と地球の成分は塵となって数百kmの高さまで舞い上がり、地球全体を覆って太陽光が地上に到達しない「地球の冬」をもたらしました。その間、陸、海を問わず、主に体調節の出来ない恐竜を含む爬虫類が大打撃を受け、植物が育たず、植物を餌としている小動物も打撃を受け、いわゆる「食物連鎖」が断ち切られた状態となってしまいました。その結果、実に陸の生物種の60%、海洋生物の75%が絶滅してしまったとされ、この時期を境に体温調節が出来ない大型恐竜なども忽然と姿を消したとされます。生態系が大きく変わった中でたかにかに生き残ってきたのが現在の私たち人類を含む現存している生物の祖先なのです。この一連のおおまかな筋書きが、恐竜が絶滅し現在の生物の祖先が生き残った有力な説の一つとされます。

前回、120m以下の隕石なら燃え尽きると書きましたが、もしそのまま燃えずに地球に落下すれば地球規模で被害が出る平均直径1Km以上とされ、その「予備軍」として、ざっと2000個余りが宇宙を漂っており、その中で地球付近に来ると確認されているものは150個あるとされます。確認がとれない残り約1850個は、数多ある惑星の引力の影響で飛んでゆく方向がふらふらして定まらないので到達直前まで予測が困難だということです。近年では2004年3月に小惑星が人工衛星の高さあたり（上空43Km）をかすめて去っていった大惨事寸前の事例がありました。

科学者によると地球に衝突する確率として今世紀中には2万分の1とされ、私達が活着している間にはまあ無さそうですね。とは言え、いつかは来ってしまう巨大隕石への対処は？

映画「ディープインパクト」や「アルマゲドン」では向かってくる隕石に核爆弾を用いて爆破し危機を回避していたと記憶しておりますが、衝突は回避できても核爆弾で汚染された破片が落下し2次被害が有るとの指摘もあり興行的には面白いが「天災」が「人災」に置き換わる可能性があると言及する向きもあるそうです。科学者はさまざまな方法を模索中とされますが、ひとつは衝突の可能性がある小惑星を「宇宙タグポート」で掴んで移動させる。もうひとつは太陽の光を虫眼鏡と同じ理屈でその惑星表面の一点に集中照射し、惑星の表面が溶けて噴出したガスがロケット噴射と同様の理屈で進路を変えるなどと言った壮大な構想もあるようです。地球そのものを移動させる事を考えている学者もおられるようですが、月を含む他の惑星との相互影響が崩れ、後々とも無い事になりそうです。何れにせよ、後々を考えれば技術的に可能であれば進路を変えてあげるのが一番良いのではないかと感じます。22世紀になれば、科学技術も想像を超えた発展をしているでしょうから、衝突を避ける良い方法が見つかるかも知れませんね。何と言っても宇宙規模の自然の力はホンに恐ろしいですねエ～ (x。x)

第59話 平成19年 10月23日

● 「人」はいかにして「人」になったか？

人類の祖先は「猿」であると言及する説を唱えたのは英国の学者ダーウィンであるのは有名な話ですね。それまで欧州では「アダムとイヴ」が人の始まりと言及する認識が中心でした。その説は学会や世間の批判にさらされ哀れダーウィンは「顔がダーウィン。身体が猿」と言及する風刺画まで描かれ揶揄される始末でした。それから150年ほどたった今日、この説に異論を唱える人はいないでしょう。

人類の祖先はアフリカ大陸に生息していた猿であったと言われ、森林がうっそうとしている環境の中、木から木へ飛び移る空中生活が中心だったのです。手と足を巧みに使う事は他の動物には無く、猿の脳はある程度まで発達し、少しずつ知能を持つようになって行つたのです。

そんな中、アフリカに人類を生み出す劇的な変化があったのです。

マントル対流（「生きている地球」で書いた内容です）により地球の岩盤がマントルの粘り気で引きずられてそれに伴い陸も移動しました。（現在もしています）その過程でアフリカ大陸東部に別の島がじんわりとぶつかり当時のアフリカ大陸と一体化しました。押し付けられる力で接岸部分から少し奥地を中心に山脈が盛り上がり、その山脈で風の流れが遮られ西側の気候は一変しまったのです。それまで湿気を含んだ海風のお陰でうっそうと繁っていた森林は、海風がその山脈に当たる事で湿気を奪われ、乾いた風しか来なくなり低い木々が点在する草原へと変わって行ったのだとされます。丁度、冬に日本海側で大陸からの湿った風の湿気が雪となって奪われ、太平洋側に乾燥した風が吹き降ろすのと同じような現象です。と言うわけで、木の上を中心に空中生活していた猿は地上中心の生活に変わらざるを得なかったのです。

幸運な事にそれまで木にぶら下がる事が多かった事で足を下にまっすぐ伸ばす姿勢が自然と身についていたので身体の構造は地上で歩く事への準備が知らず知らずの内に出来ており、草原になった土地での移動手段は2本の足で歩く事が主となっていったのです。

それまで足代わりにもなった手は足の機能から開放され、手の機能が発達し、それに伴い脳も更に発達していったのです。また、2足歩行になる事により背骨の頂点に頭が位置するようになると頭が重くなっても頭を支える事ができ脳が更に大きくなり知能が加速されたのです。そして人類の祖先は全世界に散らばり、その発達した知能をもってその土地に定着する工夫をし、各地で文明や文化を築いていったのです。それが猿が人類に至る過程の有力な説とされます。

もし、猿が元々草原で生活し、他の四足歩行の動物と同様の生活であれば猿は人類の祖先では無かったのかもしれませんが。色んな偶然の積み重ねで、ひょっとしたら現在の人類は存在せず、別の種が繁栄し、その祖先は「鳥」「昆虫」「植物」「軟体動物」などであってもおかしくなかったのです。

自然とはなんと偶然の産物を巧みに演出する不思議で奥の深いものなのではないでしょうか！

余談ですが、2足歩行で人類が獲得したのは大きな脳みそですが、それと同時に「腰痛」もおまけでついて来てしまいました～（x。x;四足歩行の動物は、腰に負担が掛からないので腰痛はないとされます。

第60話 平成19年10月30日

●「しづかなる 力満ちゆき バッタ飛ぶ」

この句は昭和初期の俳人「加藤楸邨」が長患いから俳壇に復帰する際に長い療養生活の中で力を溜め、自らの更なる飛躍を期して詠ったものとされます。

人には力を溜める時期があり、満を持してその力を発揮する機会があります。出来ない時には出来るように努力し、少しでも目標に近づける事ができる恵まれた能力が生来備わっているのです。やたら派手な事をしてても実力が伴わなければ何にもなりません。過日、あるスポーツで低俗な演出？をして世間のヒンシュクを買っていた人々を見ましたが服装、言動とも程度が低く、先人・先輩への尊敬の念も皆無だったので記憶に新しいところです。

その一連の報道を見て思い出したのが国語の教科書の題材で採り上げられていた物語です。確か「猩々緋（しょうじょうひ）」と言う「想像上の獣をあしらった鮮やかな赤色の鎧」をまとい、その異様な威圧感をもって戦場で並み居る強敵を次々を倒していた武将の話です。実際は、その甲冑（=鎧）で一瞬相手をひるませ、そのスキに乗じて打ち破ってきたものであって実力では無かったと言う話の内容でした。ある戦でその鎧を甥（だっただと思えます）に貸す事となり、本人は地味な黒い甲冑で戦に臨んだところ、あっけなく敵に討ち取られてしまったと言うものです。まさしくその「猩々緋」と言う鎧に守られているのも判らず己の

実力を過信していたということだったのでしょうか。もともと、鎧を着せた周囲の責任も見逃せませんが・・・
きちっと実力を溜めたものが最後に目標に達しえるのが本来の姿なのだと思いますが、その努力と共に品格、人格、思いやり、感謝、尊敬の念が形成されるのです。本人の努力と周囲の協力で本当に一流とされる選手（人）は回りへの感謝と気配りを忘れぬ謙虚な人が多いと感じます。

また最近、攻（口）撃や自己主張は目いっぱいするけれども、いざ、その人に非難の矛先が向くとなんにも対処出来ない無責任さ、無能力さをさらけ出す人が増えてきたな^Aと感じるのは私だけでしょうか？実力と裏づけと、人への敬愛をしっかりと身に付けた「力満ちゆきバツタ飛ぶ」で行かないとね^E。

しかし、余分な鎧がなくなって素直になり、吹っ切れて再出発を誓った人の顔つきには、時として清々しさを感じる事もありますね。

第61話 平成19年11月6日

●大坂難波はネギ畑

大阪の梅田がかつて梅の栽培が盛んであったため「梅田」という地名になったのですが、大阪のもう一つの顔、難波は「なにわ」とも読み

「な」（=魚、菜）＋「にわ」（=広い場所、庭）
に由来するのだそうです。

その昔、現在の難波近くまで海岸線があった事もあり、魚も採れ、野菜の栽培も盛んだったことからその地名が生まれたとされます。JR「難波駅」は最近まで「湊町駅」でしたがその事でも付近に湊（港）があり、海が迫っていた事が推察されます。いつの間にか「なにわ」には「浪速」と「難波」の漢字が充てられていましたが「難波」だけが「なにわ」と「なんば」の両方の読み方があり、「浪速」と共に使い分けをされているのは興味深い事です。

さて、明治時代に南海電鉄が開業した当初難波駅周辺には畑、とりわけ青ネギ畑が一面に広がっていたのですが、さらにその周辺では豊臣秀吉が奨励して以来の「合鴨」の養殖が盛んだったとされます。

今の町並みを見ると想像もつきませんがね～(x。x?)

秀吉が知るか知らずか「鴨ネギ」・・・「鴨がネギしょって（背負って）来よった^テ」という言葉がある程、鴨とネギの相性が抜群でさまざまな料理に使われていますが、個人的にはネギのたっぷり入った鴨鍋は鍋料理の中でも最上の部類だと思っています。これからの時期においしいっ！！p(^Q^)/

青ネギを別名「なんば（ん）」と言うのをご存知の方もおられるでしょうが「難波」から由来した俗称なのはお解かり頂けると思います。

という訳で「鴨」＋「(青)ネギ」入りうどんの事を「鴨なんば（ん）」と言いますが、これは「鴨+ねぎ」→「鴨難波」から日本全国に広がった呼び名なのです。それほど知名度が高かった証でしょう。

以前に書きました「綾町の郷田町長」も農作物をブランド化するひらめきをこのような事から得たのかも知れませんね。

ちなみに夜店の風物詩の一つ「唐もろこし」も「唐きび」または「なんば(ん)きび」などと言う俗称があります

がこれは唐もろこしの毛のような部分（めしべ）が欧米人の毛髪のように茶色くなる事から欧州人またはその国を意味する「南蛮」から由来したものなのです。

「唐」は、外国から入って来たと言う意味です。また「きび」は「砂糖きび」などと同種であることからその名称です。もろこしは美しく並んだ粒の実を意味するそうです。少し説明がくどかったトですか？・・・

/(^o^);

おまけ 原材料高騰に関する大阪府下の中小企業の状況

84%の企業が価格に転嫁できずにいるが、その内食品、繊維などの生活関連の業種では更に厳しく92%が転嫁できないでいると言う。

また、逆に価格を下げさせられた企業が1割もあり原材料高騰の折、厳しい状況である。

仕入れ材料価格が上昇したとされる中小企業は全体の82%で、その上げ幅は10~15%とされる。

その中で、売価に転嫁できたとする企業は16%あるが、更に「ほぼ完全に転嫁できた」のは更にその内の25%とされ、全体の4%程度に過ぎない。原材料高騰のなか、依然として親企業からの値下げ圧力を受けている企業は4%減っても72%と高水準である。

この記事から感じ取れる一面は、企業規模が大きければ、また特異な技術やサービスを持つ企業ほど利益を上げる傾向ということ。また、食品などが値上げされている中、協力会社の納入価格が抑えられているのは矛盾を感じます。結果、大きい会社ほど利益が上がるシクミがあるのが見て取れます。

第62話 平成19年11月13日

●「かんとだき（関東煮）」よもやま話

「関東煮」が美味しい季節となりましたね。この時期、手間がそんなに掛からない割りに喜ばれる料理の一つだと思います。p(^Q^)/

「関東煮」は「おでん」とも呼ばれるのは周知の通り。その歴史は田楽が出发点なのだそうですが田楽が記録に残っているのは室町時代からで、実際はそれ以前からの食文化とされます。

田楽の「でん」に丁寧な表現、若しくは親しみを表現をするのに「お」を付けて「おでん」と呼ばれるようになり、単に田楽といえば「焼き田楽」を指すようになったとされます。その後、江戸時代に溜まり醤油から出来た濃口醤油が売られるようになり醤油味の濃いおつゆで煮た「おでん」がつくられるようになったのだそうです。それが関西に伝わり、濃いおつゆが関東風という事で「関東炊き」「関東煮」と言われるようになったと言う説があります。（中国の「広東」の鍋料理が由来とも）

おでんは一時、発祥の地とされる江戸では廃れ、関西では昆布だしをとったり薄味にしたりと、その地になじむよう工夫されて発展してきました。今では日本全国、各地域の地方色も豊かにそれぞれの物を採り入れ、大阪では見られない具もあるようです。また、一旦、煮込みとして伝わっていたものが元の焼き田楽のように戻ったようなおでんもあるとか・・・先祖帰りのようなものでしょうか？

一方でコンビニでのおでんは定番になっており、味付けの違いは地域性があるものの具は画一化されつつあるのかなと感じ、地域性がなくなると思うと少し寂しい気がします。

麺類のつゆを見ればよくわかりますが、関東では濃く、関西では薄い味付けが中心とされているものの、おでんに関しては、関東では薄味、関西では濃い味が好まれると言う不思議な逆転現象となっているのは興味深い事です。と言う事は関東では「関西煮」と呼ばれている！？そんな訳ないっか～（^^）

また現在では、関西では濃い味のものを「関東煮」、薄味のものを「おでん」という分類がなんとなくなされているような気がします。気のせいでしょうか？

余談ですが、私の友人に「関東煮にマヨネーズを付たらお好み焼きみたいな味になるでっ！」とハマってる人がおります。騙されたと思っていっぺん試してみても・・・/(^o^);

第63話 平成19年 11月20日

● クリスマスはなんで「X'マス」なんやろ？

早、来月はクリスマスの時期ですね。気の早い店では10月の末からクリスマス用品を揃えたり、飾つたりして賑やかさも増してきます。

さて、日本は不思議なもので仏教国にもかかわらず、神社（神道）に初詣をし、舶来の「クリスマス」や「バレンタイン」そして最近では「ハロウィーン」までも取り込んできました。もともと、それらが商売になる事を目論んだ方々が外国文化を輸入し、その功績？は大きいのです。まっ要するに宗教事では無く「行事」の一つとして日本なりにその文化が定着していった部分が大きい訳ですね。

その中で老舗輸入文化の一つ「クリスマス」は、英語で書くと「C h r i s t m a s」となる訳ですが、街中に溢れ出している看板や広告に「X 'm a s」または「X'マス」などと書かれた物も見受けられます。その「X '」とは何が由来なのでしょう？

クリスマスが「キリスト教」や「イエス・キリスト」に関係が深いのは周知の通りなのですが、キリストは英語で「C h r i s t」ギリシャ語で「X r i s t o s」と書くのだそうです。「m a s (マス)」は、「ミサ」即ち礼拝を指し「キリスト+ミサ」で「キリストに対する礼拝」なのでしょう。と言う訳で前述のギリシャ語を使った略語が「X 'm a s」となると言う事なのだそうです。

と言う事は「C 'm a s」でも可笑しくなかつたんですかね～/(^o^)?

さて、12月25日が何故クリスマスなのかはイエス・キリストの誕生日や復活の日であるとか、何かの儀式があったのがきっかけとか諸説紛々らしいのですが、今のところはっきりとはしないらしいのです。ただ、クリスマスの祭りは1600年以上も前から存在していたのは記録に残っているとの事です。

余談ですが、聖書は書き終えるまで100年以上も要したそうで、書いたものが無い時期に内容を正確に語り伝えて行くにはかなりの労力が必要だったと想像できます。世界に歴史ある宗教が沢山ありますが、元来「幸せや、心の安らぎ」を求めているはずの宗教が時として「対立」や「戦争」の火種になってしまうのは矛盾と共に悲しく感じる事です。

まっ、固い話はさて置いて、日本は日本流で皆さんそれぞれの過ごし方をしましょう～\(^o^)/

第64話 平成19年 11月27日

● 飽から良へ（質への転換）（私見）

ついこの間まで「飽食の時代」「使い捨ての時代」など、物資の豊富さを背景に特に先進国では、その豊かさを享受する事が出来たものです。

しかしながら近年、中国を始めとする新興国の台頭、環境問題への取り組みから資源を取り巻く環境が大きく変わらざるを得ない状況になりつつあります。また、お金を沢山もっている投資“屋”が資源などのモノに投資し、利を得る風潮が顕著になってきました。

そんな中で、あらゆる物が値上がりへと向かい、我々の家計を圧迫し始めているのを実感されている事と思います。身近な外食産業においても、安さを前面に打ち出していたのが「満足感」と言う付加価値を武器にしようと知恵を絞るようになってきました。それらは「安全」「安心」「希少」「他に無い」などであり、安さのみに満足し、納得してきた消費の流れを変えざるを得なくなってきた証なのです。常々私は「行き過ぎは必ずある程度まで元に戻る」という信念めいたものを持っています。究極に安く物を供給するシクミは、薄氷の上に成り立っており、それを支えている1つの前提が崩れるとそのシクミ全体が成り立たなくなるような不安定なものも多々あると感じるのです。もちろんそのシクミを作るのには膨大な知恵と情報、人脈な

どが必要なのですが前提が崩れるとシクミ自体も崩壊する危険がはらんでいるのです。

それらのシクミのお陰で我々は安い物を物質的に豊か受ける事ができその中で暮らせたのですが、これからは選択と集中と言う現在の企業が抱えている問題も一個人にも迫ってくるようになるのです。

何気なしに買っていたものに対し、今や「吟味」し「要・不要」の選択をする基準が知らず知らずの内に高くならざるを得なくなる。それはまさに「その人が納得する良い物」への消費移行であり消費動向が「飽から良へ」となる過渡期なのかも知れません。企業は消費者が高い次元で納得し、満足をしてもらえる物を供給できる姿勢と組織作りをし、選択と集中をして行かねばならない局面に立たされているのです。

とかく「量」の消費を追及するのではなく「良」を消費するようなシクミ作りが大切なのではないのでしょうか？実際に、価格よりも内容や表示を吟味する傾向がよりはっきりしてきたとする報告もあり、今後が注目されるどころです。

しかし、一方では高級梅干しに使われる「南高梅」は、つい最近まで中国産の安価な梅干しに市場を荒らされていたのが昨今の中国産食品に対する安全性の不安から消費動向は国内産に戻ってきつつあるそうです。しかしながら、長期にわたり安価な梅干しに慣らされた結果「梅干の値段はこんなもの」と言う意識付けがなされてしまったようです。販売力のある小売業は依然安く物を供給すべくさまざまな無理難題を供給会社に強要し、この場合「南高梅」のブランドがついていても形崩れや粒の大きさがまちまちな2級品、3級品といったものを使用せざるを得なくなるのです。このため産地ではブランド力の低下に悩んでいるとされます。ブランドとは何なのでしょう？高級ブランドバッグなどでも「ニセモノ」を求める消費動向が有り「良質」「法令順守」とは正反対の部分も感じられる不思議な消費動向も見られます。

これからの「良」はブランドと言う漠然とした信頼感だけでなく、健康や自然にも良く、日常を豊かにし資源の節約、循環にも良いと言う事が明確である事も更に大きな要素となるでしょう。

資源の無いこの国で今まで豊かさに慣れた我々が大方向転換を迫られ、本当の豊かさを探ってどのように消費の方向が変化してゆくのかが見ものであり、世界が密かに注目していると言っても過言では無いでしょう。なにせ日本はさまざまなものを輸入に頼っているのですから。

我々も、買って頂く方々が納得する「良質」「上質」のモノ作りをして行かねば p(^.^)q

第65話 平成19年12月4日

●「門松」よもやま話

正月も間近となってきたわけですが、正月が題材の戯れ唄に「いとし貴方は言ふけれど角で逢お逢お待っばかり」という一節があったと記憶しています（少し記憶が曖昧ですが・・・）。これは「彼氏がいつもの角で逢おうと言ってくれるけど、いつも待たされるばかりだわ」と嘆く女心を「門で青々松ばかり」＝「彼がなかなか来なくて、門松の松葉が青々としているだけで待つのが虚しいわ」と言う気持ちを門松に絡めて表しているのだと自分なりに解釈しています。

戯れ唄はさて置き、お正月から始まる1年の門出の新年を祝い、家の門などに「門松」を飾る習慣が今でも見られますね。「門松」とはその年の神さんを招く目印であり、また招かれた神さんが宿る場所を表すものとされます。もともとは1年中青い葉を付けている木々（常緑葉樹と言います）を使っていたのが松中心となり、そのことから門松と呼ばれるようになったとか。主に松と竹で作られる門松には「松は千歳を契り、竹は万代を契る」との意味合いから、永き代々にわたって神さんに来てもらいたいと言う願いも込められているとの事です。

また、門松は古くから新しい年を迎えるにあたって、玄関先を清め、悪い鬼又は邪気などが家の中に入ら

ぬようにと言う意味もあり、しめ縄と同じ様な意味合いもありそうです。

※「しめ縄は本来、神前または神事の場に不浄なものへの侵入を禁ずる印として張る縄です」昨年12月の「しめ縄^{なわ} 奇談」より
門松は、31日に立てるのを「一夜飾り」といってさける習慣があるそうで、正月に神さんを迎えるにあたり、年末の最期の1日に飾り始めるのは神さんを迎えるにあたり短すぎて失礼だと言う事なのでしょう。また、29日に立てるのは、「九松」といって「苦待つ」に通ずるということから嫌^{きら}われています。と言うわけで28日までに立てるのが良いとされます。

新年に松を家に持ち帰る習慣は古く、平安時代に中国から伝わり室町時代に現在のように玄関の飾りとする様式となり現在に引き継がれている1つが門松なのでしょう。

今や「門松」は家の前に飾っているのは大変珍しく、百貨店など大きな店や会社などでしか見かけられなくなりましたが、正月らしさが無くなってきた昨今、この風習が少しでも残っているのは正月の節目を感じさせてくれると言う意味でも良い事だと思います。

第66話 平成19年12月11日

● あなた好みの お犬になるゆわ〜♪ ～犬はいかにして犬になったか？～

「奥村チヨ」の歌詞をもじって書いた標題ですが、気づいた方がおられたら凄いい〜（^；

さて、犬は番犬やペット、狩り、牧羊犬などさまざまな種類の犬が人間の友として、あるいは片腕として人間社会に同化してますね。それら犬の祖先は狼であったと言うのは広く知られていることです。

狼は元々群れをなし、上下関係のはっきりした中で生活をしているのです。上下関係がはっきりしているという事はこの場合、誰に服従すれば自分に有利になると言う本能的な判断がなされるのだと思います。

そういった状況の下、人類が集落を作り、そこで出た残飯はゴミとして一箇所に集められるようになっていったのですがそれら残飯を目当てに狼達が人間社会に入り込んできたのです。

残飯とは言え、空腹を満たしてくれると言う事で人間社会にすり寄り、さらにどうすればもっと気に入られて、もっと満たしてくれるのかを本能的に行動に出していったのです。先ほどの有利な上下関係を持つと言う本能が幸いしたのでしょうか？

かくて狼は人間と共棲をする事となり、狼から従順な犬へと変化を遂げたのです。

犬をかわいいと思う人は多いと思いますが、人が命令すれば喜んでそれに従い、そのしぐさやなついてくる様子もまた可愛いと感じる人も多いと思います。人々を癒してくれると言う事こそが犬の魅力の1つなのだと感じます。その所も犬は本能的に知っているのだとされます。

冒頭に書きましたように人間の手により品種改良がなされ、先祖が狼とは思えない種類もありますね。豪華に見える毛足の長い犬。ブルドッグの鼻の低い平坦な顔は牛追いの時に牛に噛み付いても鼻が邪魔にならず、更には皮がたるんでいて牛の角で突かれてもたるんだ皮によって致命傷を負わないように品種改良されています。また、チワワやトイプードルと言ったきゃしゃで愛くるしい犬・・・などなど。人の欲求により品種が作られてきたのです。まさに、飼う人の望みにより、その本能を利用し犬によって役割分担がなされるまでに変化させられたのです。人の「欲求」と、狼の「すりより本能」がうまく合わさって今日に至っているのでしょうか？つい先日、飼い主でもないのに凍死しかねない老人に寄り添って身体を温めた犬のニュースがありましたが、感情も感性も持ち合わせている事を感じさせるすばらしい動物のひとつですね。

しかし一方では甘やかしてしまった結果手に負えなくなったり、家族の間でも極端に上下関係を判断して手を焼かせる事もあるようです。これは、徹底した矯正教育をしなければ成らない場合もあり、人間社会にも当てはまる場合がありますね〜。これは「上下関係を見極める」本能などから来たものだけでは無さそう

です。また、自然界には見られない「腹を上にして寝る」現象も、柔らかい腹を食いぢりに来る外敵が来ないからとされます。人の社会でも無防備で、いざと言うときに何にも対処出来ない人が多いのとよく似ています。日本は長く平和のような状態が続いている一面でしょうか。

第67話 平成19年12月18日

● 偽装の根幹とは？ (私見)

今年1年、世の中を賑わせ続けているものが「偽装」ですね。偽装には「株取引偽装」から始まり「年金記録の疑わしさ」「耐震偽造」「食品偽装」、議員さん方の「政治資金虚偽申告」国会の証人喚問の「偽証」、製品性能の試験結果「偽装(改竄)」などなど枚挙に暇がありません。悲しいかな清水寺で今年を表す文字として「偽」を選ばれたのも頷けますね。

いままで表に出なかったのは知っていても表に出さない、出しにくい状況であったのが全体の知識の向上や法の変遷、世の中の流れと共にその仕事に携わる人々の意識や道徳心(モラル)が向上したのもその側面かもしれません。もちろん、何らかの理由で「その企業憎し」による告発もあるでしょう。程度ものですが、中には低い次元のものや悪質なものもあるようです。

さてそれら「偽装」の分類を私なりにして見ると

① 法律や規則、モノの価値などを知らなかった(無知)

知識不足。携わる者として、勉強不足。この場合はその業界で飯を食わせてもらっているのに論外です。自ら進んで知るべき事。

② 今までやって来たことに法律の網が掛かったが、経験で今まで通りやっていた

「今までこれで行けてたやん！法律？そんなの関係ねえ〜！今まで通りやっ！」では通用しない時代でもあります。

③ 社会的信用を逆手にとった

「ウチの名前や名産品などの冠がついてたら黙っていても売れるデ」と言った「驕り」でしょうね、恐らく…。
「お上」と言う役所や政治家の信用も汚されてしまいました。

④ これくらいやったらええやん(管理のずさんさ、適当さ)

「なアなア」でやっている。甘い認識で世間をなめている。この場合の対処は甘く、後手後手になっている事が多いです。「年金問題」もねえ。

⑤ コストの削減、もしくは利益のために誤魔化しをする

利益の為には、少々のはええやろ。この事で困った事になった人はおらんし、誰にも迷惑を掛けてない。ウチの利益が揚がりさえすればええんじやア

⑥ 得意先が求めた事に応えるためやむ終えず

「安うせな、よそから買うぞ」「欠品は罰金や」などの脅しに負けて、仕入れが安い、または調達しやすいニセモノを使うはめになる。

⑦ 得意先に取り入れるために、安く提供出来る事を売り物にする

「あの得意先と取引する為には安うせなアカン。設計や材料をごまかしてウチも損せんようにして取り入ったろ〜」

と言ったものでしょうか？偽装の数々を上分類と照らし合わせて複合汚染度を見るのも一興ですワナ。

いずれも軸足は消費者、一般人並びに従業員の方向を向いていなく、世間をなめているのが共通する部分でしょうか。そうして、いつの間にか増長した末に事が表に出て立ち行かなくなる。いつしか物事の判断基

準が「善悪」から「損得」に重きが変わり、良心が薄れてしまったのがその根幹なのでしょうね。自己中心的なこのような風潮が一般人にも蔓延しているのは寂しい、悲しい限りです。

反省が無いが故の醜い責任の押し付けもよく見受けられましたし、エライさんが雁首そろえて「すみません」と謝っているのをいやと言うほど見ましたが、何（誰）に向かって何を謝ってどう反省しているのでしょうか？よく分からない場合もありますね。なにか流行りの儀式のように感じる場合もあります。

しかしながら一方で実態を把握しないままに出来てしまっている法の不備もあり難しい部分です。また、このような事が続くと、逆に消費者がカン違いをして増長してしまい病的に過剰反応する事も懸念されます。

そのような世間を騙したりする人や会社が増えれば更に法の網をかぶせてゆき、まともにやっている者までもが言われ無き被害をこうむるのも現代の構図の一つです。常識やまともな考えや判断が出来なく、なんでも「法に委ねてしまおうとする」と言うのも荒んだ時代の仇花でしょうか？

食品の期限などの表示については、それに頼りすぎて人の本来持っている「本能的に食べても良いかどうかの動物的判断」も鈍ってしまうのでは無いか？と危惧します。保存状態が悪いにも関わらず表示のみで判断し、とんでもない事態にもなりかねませんね。

かく、批判をしている私も経営者として、人としてどこまできちんと出来ているのかは恥ずかしながら疑問です。世間に判断を委ねる部分です。

第68話 平成19年12月25日

● 身近な漢字で難しい苗字（名字） その2

昨年の年末に珍しい苗字の人と出会ったのがきっかけでこの話題を書きましたが、この年末も第2弾!!
今回は漢数字でいきまひょかア～ (^o^)

まずは一の位から

「一」はにのまえさん。「二の手前」だからですね。またははじめさん。私の友人にもおられます。

「二」はしたながさん。形から入ってますね。

「九」は去年も書きました、いちじくさん。

「十」はつなしさん。数を数えるのにひとつ、ふたつ・・・このつと数えていって「とお」になると「とおつ」とは言わず「つ」を付けないからでしょうネ？一～九まで「つ」を付けるのは、言いやすく調子を取るために自然と付いたものでしょう。

^く位が上がって

「二十一」さんはにそいちさん

「三五」さんはさんごさん

「四十」さんはしじゅうさん・・・この二つはほぼそのままですね

「五三」さんはいつみさん。ごみさんとも読むのでしょうか？

「八十」さんはやそさん。大昔に「青い山脈」などで有名な「西条八十」と言う作詞家でモノ書きの方がおられました。苗字ではないのですが・・・

「九九」さんはくくさん。小学校の時に父が九九を言えるまで寝かせてもらえなかったのを思い出してしまいますウ (xox)

去年は「九十九」さんも書いたと思います。

まアこのあたりは、まだ分かりやすいですね (^o^)

年末ですが遡って・・・

「四月一日」はわたぬきさん

「五月一日」はまやさん

「八月一日」ははずみさん

「八月十五日」はあきなさん。旧暦で秋の真っ最中と言う意味でしょうか？

これらは中々読めまへん〜。いづれも暦や風習などと深い関係がありそうですね

「二月二十九日」は「うるうどし」さんやったりしてエ・・・ウソでっせ〜/(^。^) でもあったりして・・・
で、いよいよ年末・・・

「十二月一日」はしわすださん。「師走やで〜っ」と言う感じでなんとなく気ぜわしい名前ですね。

「十二月三十一日」はひづめさん。年末から新年に向けて「蹄^{ひづめ}」で蹴り出すとでも言うのでしょうか？と言うわけで、良い年に向かって蹴りだされてください〜(^o^)/

第69話 平成20年1月8日

●「干支」よもやま話

本年は「十二支」の最初「ねずみ」の「子年」ですね。干支に動物が使われているのは中国の古い時代、民衆に「十二支」を浸透させるため覚えやすいようにと動物名をあてがったからだとされます。そもそも「十二支」とは木星が12年で天の軌道を一周することから、それを示すために各年に割り振られたものだと思います。日常使う動物の漢字と「十二支」を示す漢字が異なるのはそのせいなのでしょうね。何故か「猫」は入っていませんね。「虎」が「猫」と兼任しているのでしょうか？

ちなみに年明けのテレビ番組によりますと中国の言い伝えで、子（鼠）、丑（牛）・・・の順番は、鼠と牛との競争で鼠が先着したからなのだとか・・・

念のために漢字の対比を「十二支の漢字/常用字」で確認してみましょう。

「子/鼠 丑/牛 寅/虎 卯/兔 辰/竜 巳/蛇 午/馬 未/羊 申/猿 酉/鶏 戌/犬 亥/猪」ですね。やはり、全然違いますよね〜

また、一ヶ月を10日単位でそれぞれの日に名を振付けたのが「十干（じっかん）」とされ、以下の10種の漢字があてはめられます。

甲（コウ）、乙（オツ）、丙（ヘイ）、丁（テイ）、戊（ボ）、己（キ）、庚（コウ）、辛（シン）、壬（ジン）、癸（キ）

とされ「甲・乙・丙・丁」など割合身近のものも見受けられます。「十二支」と「十干」が組み合わせさって

$$12 \text{ (十二支)} \times 5 = \underline{60}$$

$$10 \text{ (十干)} \times 6 = \underline{60}$$

と言う最小公倍数（中学で学んだ懐かしい?数学用語です!!）で60が一巡となります。これは年の周期にも採り入れられ、60年で一巡する年回りになっています。だから60歳を還暦と言うのですね。

ちなみに阪神タイガースの本拠地「甲子園」は、「十干」の最初の「甲」と「十二支」の始まりである「子」の年であった「甲子」の年に出来たのは有名な話です。（1924年の竣工です）

と言うわけで「干支」とは「十二支」と「十干」との組み合わせを示す「十干十二支」が本来の表記なのだそうです。私の認識も少し曖昧でした（^；

古代に天空と自然の移ろいを根気よく観察し、自然の法則を見出しそれらが日常に活かされているのは先人の知恵の素晴らしさを感じます。

ねずみは七福神の一人で「豊穰^{ほうじょう}の神」である大黒さまの遣いとされます。今年がねずみが増えるが如く繁栄する「豊^{ゆた}」かな稔^{みの}り有る年となるか、ねずみが食い荒らすが如く「乱」となるのか？

もちろん広く世の中の心や暮らしが「豊」^{ゆたか}であって欲しいものです。

第70話 平成20年1月15日

●100円ライター秘話

今ではごく当たり前になった100円ライターですが、昔はライターと言えば、金属の塊で出来たような重たいものが主流で、金、銀張り、漆塗りと云った高級品もありました。また、30年程前にボールペンで有名な「BIC」という外資の会社が300円程度で当時としては安いライターを売っていたと記憶しています。

ところが、当時「東海精機」という会社が「ライターを販売価格100円で出来ないか？」と言う企画を考えました。その企画を任された社員は高級ライターの名門「クラウンライター」から転職して来た技術屋さんだったのでその企画には面食らったはずです。

当時、数千円から万円単位の価格帯のライターを設計していた人がその100分の1以下の原価でできるように考えろと言う命令なわけですから・・・

中途の報告では何度も上司に泣きを入れ「300円だったら出来ます」、「200円だったら出来ます」と回答したものの何度も蹴られたと言います。あくまでも最終目標は100円販売なのですから。あらゆる製造のコストダウン、内職での組立、販売コストの圧縮でようやく実現にこぎつけたと聞きます。

高級ライターに携わっていたプライドを捨てた地点から吹っ切れて、今まで持っていた壁をぶち破る事によりそれが実現したのだと想像します。

販売された当初「安もんライター」という偏見でなかなか受入れてもらえなかったものの、今では市民権を得ています。(今では2~3個100円なんていう物もありますね(x。x;))

人々の価値観を変えたと言う意味でも、企画を含め携わった方々を含めてすごい事だったと思います。一方では、高級ライターやマッチの需要が激減してしまいました。時代を作るものあり、時代にしばむものあります。

使い捨てとは言え東南アジアでは100円ライターをガスを入れられるように改造し、繰り返し使う技術もあるそうです。今や資源が貴重になってきて、これはエエ技術やないですか？

余談ですが、近年、ガスライターやカセットコンロ用のように薬物規制が無く、安価に手に入るガスをシンナーのように吸引し酩酊状態を楽しむ危険な通称「ガスパン遊び」と言われるものが流行りだし、中毒症状や死亡事故が発生しており今後の大きな社会問題になりかねないと言う事です。

第71話 平成20年1月22日

●中国に渡る日本の農作物

日本産の高級米が中国のスーパーマーケットの店頭に出回り、好評だったのは記憶に新しいところですが、日本の農業が産業として生き残る方向性の一つでしょうか？

さてこれとは逆に日本の農業を脅かす一つの「事件」がありました。それは昨年11月に販売された「玉ねぎ」でした。淡路産の玉ねぎは日本で有数の産地の一つであり、大阪に住む私たちにも身近な農産物です。中国産の安い玉ねぎのDNA鑑定をしたところ、それは日本種「もみじ3号」と言うもので手間ひま掛けて甘味があつて貯蔵性が高くなるよう品種改良を重ねて来たものだったのです。調査によると、どこかの商社が日本から持ち出し中国で栽培した疑いが極めて高いとの報告が出たそうです。日本の農業技術の中で品種改良の技術は細かな注文に応える事が出来「芸術品とも工業製品並みともいわれる」のだそうですが、品種改良には10~20年程の期間を要し、それらに掛けられる手間も費用も莫大なのです。

また、求められた品質で収穫できるのは一代限りで、それで採れた種を蒔いても同じ結果は得られないように品種改良されているのも重要な点です。これらは「F 1種」と呼ばれ、ある意味で種を供給する会社が開発費用を投じた結果、得る利益なのです。当然、農家にも利益をもたらす技術なのですがその種をその会社から買い続けなければならない持ちつ持たれつの関係でしょうか？前出の「もみじ3号」もF 1種なのですが、その種を作る為の親種がどうやら第三者の手に渡ってしまったようで、その結果中国での栽培、輸入となってしまったようなのです。商社によるこれらの農産物輸入は「開発輸入」の一つなのですが、とても「開発」とは言えず「盗人輸入」と私は思います。その結果、「淡路産」の玉ねぎに「中国産疑惑」という逆疑惑の風評が立ち、相場が不当に下がって生産農家の存続が危ぶまれる状況になりかねないとの事であり、その他の農産物を栽培している農家も対岸の火事とは言えないと感じます。日本の工業技術のみならず農業資産をも盗むような売国奴がおるんですね。悲しい事です。

国もようやく重い腰を上げ画期的なF 1種を開発者が登録すると、その種に関する保護権利を認められ、登録権利者の許可無く海外に持ち出す事を出来なくし「知的財産」として昨年1月に持ち出しなどに対する罰則も強化されたのだそうです。

一方では「F 1種」で均一化された農産物とは一線を画し、昔ながらの品種にこだわり野菜などの本来の味を追求する事で生産農家としての生き残りを図ろうと探る動きもあります。何れにせよ、農業や工業を海外に頼らざるを得なくするようになってはいけけないのだと常々考えています。

第72話 平成20年1月29日

●北海道における金融大実験？

～私見～

北海道はその昔「蝦夷」と呼ばれていた事をご存知の方も多いと思います。現在の地名はどこから来たのでしょうか？その昔、三重県出身の地理学者であり探検家でもあった松浦武四郎という人物がおられ、長年にわたる北海道調査でアイヌ人の信頼を得て親しく交流できるようになりました。その後、明治の廃藩置県において「蝦夷の地」を当初「北加伊道」と命名したのです。「加伊（カイ）」とは、アイヌ言葉で「この地に生まれた者」の意味で、後に「海」と言う文字を充てて「北海道」と名づけたのだそうです。

一方で「蝦夷」は平安時代あたりから見られる一種の見下し言葉とされ、それは歴代将軍がその証として天皇から授かる称号が“蝦夷を討ち取る大将”と言う意味の「征夷大將軍」であった事からも見受けられます。

さて、アメリカではサブプライム問題が世界に予測も付かない影響を与えかねない状況を呈しているのですが1990年代に遡ってバブルの崩壊の一端を検証して見ましょう。不良債権処理で銀行が次々と破綻し統合され最近になってようやく落ち着き、国の厚遇のもとようやく安定してきた模様です。かつて都市銀行のひとつに北海道拓殖銀行（以下、拓銀）がありました。1998年に金融庁の主導の下、経営が破綻したのは記憶にあることでしょう。これをきっかけに多額の税金が投入され、多数の金融機関が整理、淘汰されたのは周知のごとくです。北海道の経済は、拓銀の破綻で大きく落ち込み現在もその疲弊した経済から脱却するのにあえいでいる状況です。バブル景気の終わり頃からの莫大な融資で他行に遅れを取ったあせりから泥沼の乱脈融資に走り、墓穴を掘った事が致命傷となりました。合併の話もうまく進まず結局は破綻の道を選ぶ以外の選択肢は閉ざされてしまったのです。大蔵省は拓銀崩壊後の金融機関への指導において、この経験からかなり収穫があったように思います。私が思うに「北海道を日本に見立てて大手の金融機関が崩壊すれば経済はどうなるのか？どうすればよいのか？」が実験的ななされた様に思います。「北海道やったら経済の実験をしてもええやろ～」なのではないでしょうか？「潜在的な見下し意識があったのでは？」と言うのは行き過

ぎた邪推かも知れませんが・・・拓銀破綻の教訓で大蔵省の結論は「大きい銀行を潰すと日本経済に更なる大打撃となる」だったのでしょか？その後、多くの銀行は税金を投入され統合などと言う形などで助けられたのです。もちろんその陰で、勤めていた金融機関を去らざるを得ない多くの従業者や犠牲になった会社も多かったのは言うまでもありません。もとより当時の政治屋並びに大蔵省の失政のツケをこつこつと働く国民に押し付けた結果なのですが・・・

昨日（1月28日）旧拓銀の賠償裁判の判決で経営陣に対しそれまでの裁判での賠償請求総額が101億円に上りました。片や、当時、政策を誘導した大蔵省の役人、政治家には何のお咎めもない・・・他の省庁の失政もそうですね。法の下に不平等な国です。

現在まだまだ金融機関は優遇（厚遇）され、本来の「企業の血液（＝資金）供給」が適正に行われているとは言えませんし郵政民営化の見返りなのか？保険業に進出出来るようになるなど、施策に疑問に感じる点が多いのも事実です。金融機関が本来の機能を早く取り戻して欲しいものです。

第73話 平成20年2月5日

●うるう年よもやま話

今年「うるう（閏）年」でオリンピックの開催の年でもあります。と言う訳で今月は2月29日までありますね。「閏」とは、「潤^{うるお}う」という字が誤って書かれたことがそもそも何かなア～もしそうでしたら一日余分で得をしたことから一日潤ったと言うことでしょうか（^?）

さて地球は太陽の周りを一周するのが1年、即ち365日を要するとされるのですが実際には365日と5時間48分46秒なのだそうです。その6時間弱の調整するのに4年に1度、2月の日数を1日増やして29日とする訳です。このことは2千年も前から判^{わか}っていて4年に1度、1年を366日にする事を定めていたようです。もし「うるう年」を設定しなければ、ほぼ377年で季節は逆転してしまう計算になるのだそうです。

また、時間についても科学技術が発達し、1秒の基準が正確に定められるようになったのに伴い地球の自転速さの「ゆらぎ」を調節するのに「うるう秒」も設定したそうで、最近では2006年1月1日とその日だったそうです。自転速度の「ゆらぎ」調節なので「うるう秒」についてはうるう年とは違い、不定期に設定されるようです。

ちなみに日本では江戸時代までは月の満ち欠けと季節をもとにした暦^{こよみ}を使っていましたが西洋化に伴い約120年前に現在の暦に改められました。その際、明治5年12月2日を明治6年1月1日としたそうです。即ち、大晦日は12月1日!?だったのでしょか。長年の習慣を変えるのは大変で、年末年始の時期がしばらくの期間、混乱したのは想像に難くないことですね。

干支もそうですが古代の人々は、農耕^{かた}、狩猟^{しゅりょう}、漁など自然と密接に暮らしていた分、粘り強く観測し自然の中の法則を見出す事がかなり重要だった事が窺えます。それらが暦として脈々と生きています。

ところで、2月29日生まれの人は4年に一度しか年をとらない!?んな訳は無く、年齢に関する法律により2月28日に年をとるようにしているのだそ～です。

余談ですが、この8月、オリンピックが中国で開催されますが多数の人が世界各国から短期間に北京などに集散します。サーズや鳥インフルエンザなどの未知のウイルスが世界に拡散する起爆剤とならないよう切に祈る次第です。また、その他、山積する懸念事項が現実にならぬよう・・・

緊急おまけ 凜^{りん}とした緊張感の薄れた私たち

～中国製ギョーザ禍^かに見えるもの～

日本は、戦後の経済成長過程、特に池田内閣後の高度成長路線で好景気の中、海外からは「エコノミックアニマル」と揶揄される程がむしやりにGNP（GDP）を伸ばしてきましたね。

政府の拙策などと共に、「経済は一流」という部分が氷解し、氷の下から出てきたのが高度成長期に溜まったヘドロやウミなのだと感じます。

その1つに失った「五感」があると思います。人間は、五感＋一感を本来備えており、それらを大切な成長過程で身に着ける「躰」が置き去りにされました。昭和・平成元禄を経てこの置き去りが日本の大きな損失になっており、個々人に於いても自身の損失・過失とは気付かず、何でも人のせいにしてしまう・・・

医者をはじめ、さまざまな「政治屋」「各業界の重鎮」「インテリ」と称される方々も、言葉の端々に何か欠落した部分を感じてしまう事があるのは私が「やぶにらみ」をしているからでしょうか？

さて、昨年来「食品偽装」などが日本で^{かまびす}く報道されましたが、それとて一般の消費者は「期限を超えても冷蔵庫に眠ってますよ～」と言う街頭インタビューでの回答が見られました。かく言う私も、そのクチです。（. . .）

冷蔵庫などの無い時代、その食物が食べられるかどうかの判断は「五感＋経験」を頭の中で総動員させて、なされていたはずで、判断を誤れば命に関わる事態になりかねないので、ごく当然の事のはずでしたね。

表示の消費期限に頼り、食品のブランドに頼り、食に対する判断力も「元禄」になりました。

今回、中国のギョーザに対する消費者の動向を見ますと

- ①食べておかしいのですぐに食べるのを止めた
- ②苦いけど、ハーブが入っているからこんなものと思って食べた
- ③いつもと違うけど、食べた などなど

本来「おかしい」と判断して食するのを止めるのが本当でしょう。もっとも、匂いがあれば、その時点で食べない筈です。まあ、無味無臭であればどうしようも有りませんが・・・

今回の中毒事件の原因は究明中で、テレビは製造会社とそれを輸入・販売した会社の対応・姿勢に疑問を投げ掛けていましたし、中国製を買わないようにするのが身を守る方法のひとつと説いています。

しかし、それが本当に我が身を守る対策でしょうか？

さまざまな食事をする中で少なくとも食の回数と同じだけ危険がある可能性があるわけですから、何でも鵜呑みにせず、食べる時・使う時に注意を払える、いい意味での凜とした緊張感が欲しいものです。（私もです）。厳重と言われる生産管理の枠を外れ、意図的な混入も指摘されている事から今後、より自己防衛が重要になるでしょう。風評に惑わされやすい日本人、喉元過ぎれば・・・とならぬよう。また、中国からの生鮮野菜は拒否するが冷凍野菜など加工食品の輸入が増えているのは矛盾です。

最近の食のさまざまな事件から、私たちが天から与えられた本来の素晴らしい能力が置き去られたのを垣間見えるのは私だけでしょうか？

明石の歩道橋事故についても警備側のみならず老人・子供などを連れてあの様に危険な状態の中に入っていくところのこれらと同様、危機意識の欠如に基づくものだと私の知人も言われています。

これからの製造業などは消費者の「考えられないような不用意の可能性」（＝危機意識の欠如、考えの浅さ、幼稚さ）をより深く考えてモノ作りをせねばなりません。

最後に、道路財源から^{しんこう}農業振興に振り向け、食料自給を高めるのはどうでしょうか？国民全体の益でっせ～（2月1日の月例朝礼内容に追記をし編集したものです）

第74話 平成20年2月12日

●寒い時期には・・・

今年に入り、大陸からの強い寒波で寒い期間が長く続く気候です。また大陸中国の国内の寒波も凄まじいようです。

この日本の冬は気温が低い割りに木枯らしがあまり吹かない分寒さは例年程感じないのですが、大阪では、今までのところ、はいた息があまり白くならないのが特徴と感じます。太平洋を通過する低気圧が例年ほど発達せず吹き込む空気の流れが穏やかで、太平洋側の空気が極端に乾いているので息もそんなに白くないのでしょうか？いつもとは違う冬と感じます。

さて、寒くなるとおしっこが近くなるのは良く言われることですが、それは寒い時期には汗が出る量が少なく、その分体内に水分が溜まり、その余分な水分を調節するので寒い時期にはそうなるのだとか・・・

私の経験で言いますと、夏まつりに出ている時は水分を沢山飲んでいても拘わらず、おしっこに行く必要が無い事もありました。暑さで水分が全部汗となって出てしまったのでしょうかね～

また、寒いと身体をこわばらせる事があると思いますが、膀胱も同様にこわばって膀胱の筋肉が縮こまり「膀胱が満杯やで～」と信号を送って尿意をもよおすのだそうです。身体がブルブル震えたり、こわばせたりするのは、全身の筋肉を緊張させる事により筋肉自身を発熱させて体温を保とうとする生理反応なのです。これは、急に寒い場所に移った時などになりがちな事ですね。

私は、寒いのおしっこで体内の熱を出してしまうのはもったいないと思っているのですが、身体はそれ以上に熱をつくるシクミになっており、よく出来ているようで・・・

ちなみに、おしっこは血液と並んで体調を教えてくれる目安を示してくれます。血液はそうそう見えないのですが、おしっこは自分の体調を目で見えて教えてくれる場合もあり捨てるものですが大事なものだと思っています。いつもと違うおしっこが長期間続くようでしたら一度お医者さんに見てもらうことも考えてみましょうね～ウンチも訃(^^;

第75話 平成20年2月19日

●大阪、ことばの文化

日常我々が何気なく使っている、大阪弁（関西弁）は、他の方言よりも単語が多く、さまざまな微妙な差異を的確にあらわす表現が多いのが特徴とと思っています。また、微妙な表現や感情の込め方によって抑揚が変わり、その意味合いも代わりますね。

たとえば「アホ」と言うことばは、人を見下す意味よりもより親しみや愛情を込めた表現だと思います。「なんでそんなアホな事すんの？」とか「アホやな～」など日常でよく使っていますね～おなじ「アホ」でも「どアホ」「ボケ」「まぬけ」「すかたん」「カス」などなど色んな言い方がありますね。関東の「バカ」はそれ以外の表現は、私の知識の範囲で「おおバカ（もの）」「田分け（もの）」「タコ」くらいでしょうか？

一つの身近な言葉をとってみても表現の豊かさは、他の方言に比べると際立っていると感じるのは鼻負目でしょうか？

さて、我々大阪人は日常でテレビなどで見知らぬ俳優や芸能人が出ているのを見ると、思わず「あいつ誰やねん？」などと訳も無く人に聞いたりした事はありませんか？これも大阪人の特徴とされます。別に本当に知りたい訳でもないのにそんな事を尋ねてしまうと言う「一言多い」のも大阪人の特徴でしょうか？

大阪はかつて上方と言われ、天下の台所として商人が多く江戸とは一線を画した文化を育んできました。

江戸に対する「対抗心」とその裏腹にある「お上」への何とは無しに心の片隅にある畏怖心。その中には合理性ともったいないと人情の文化であると共に、お上には反発すると共にどこか謙虚に？接するという相反する姿勢があるように思われるのです。

たとえば「振り込め（オレオレ）詐欺」は大阪人の被害が少なかったのは周知の通りです。「俺や俺や！」と電話で言われても「俺では分からへん。誰やねん？」など詐欺犯人の予測に反した「反撃」を食らわすのも被害を少なくしている一つの理由とされます。この辺も理屈に合わない事や納得の行かない事に合理性、整合性を求める大阪人の気質でしょうか？

その一方、役人、警察などお上の看板を背負っている相手には何故か弱く、謙虚に接しようとする部分があるのも特徴でしょうか。昨今の年金や税金還付に付け込んだ振り込め詐欺には大阪人もハメられてしまうのは、そう言った気性が有るからでしょうか？お上に対しては何となく立場を弱く感じる江戸コンプレックスの名残なのでしょうね。

また、大阪言葉には「二度繰り返す」のも特徴と感じます。

例えば「飯でも食いに行こか？」「うん、いこいこ」などの「いこいこ」

「ちゃうちやう」「アカンアカン」「そやそや」「ほんで？ほんで？」などなど・・・

他の方言では聞かれない、繰り返しの意思表示の表現ではないかと感じています。

これだけニュースで標準語に接しているにもかかわらず、我々が日常何気なく使っている「大阪弁」は独自の文化のもと脈々と引き継がれていますね。もちろん各地のお国言葉もそれぞれ大切に守られています。

おまけ 底知れぬ国

毒性薬品入り食品のニュースにもウンザリと言う今日この頃ですが、以下の発表をご存知と思います。ギョーザ製造元を調査したが疑念を抱かせるような「証拠が無い」旨をその国が発表。それに伴い工場長も「一番の被害者は、我々だ」と怒りを露にしたのだそうです。潔白を言い切ってしまうところが恐ろしい・・・混入状況・保管状態から状況証拠はその国での発生を強く示唆しています。また、毒混入製品の製造日付で土日の工場内監視が行き届かない状態だったと判明しています。出勤簿を見れば誰が出勤していたかは一目瞭然だと思えますし、事情聴取も容易で犯人特定も可能な筈です。

推測の域は出ませんが「証拠が無い」とは「証拠を消した結果」の事を言っているのではないのでしょうか？もっと突っ込んで言いますと「犯人（と考えられる人々）は既に拘束され、とつくに抹殺されている」のでは無いかと考えるのです。

だから「証拠が無い」・・・

「自分の非を絶対に認めないあの国ならばありえる事」と考えてしまう私はさもしい心の持ち主か？

百歩譲って「袋の製造過程で混入」でしょうか？それなら食品本体の製造工程には混入の「証拠」は無いと言い切れますね。いずれにせよ先に述べた「処理」は済んでいる可能性が考えられます。

あの国がうやむやに幕引きをする可能性は予想されている事ですが「政府間レベルで日本へ筋違いの譲歩を迫る」なんて事も考えられます。禍を力に転ずる事に卓越した知恵・・・どこかの国に通じるしたたかな部分もあります。日本（政府）より駆け引が遥かに上手です。

しかし、他国からの圧力で、ある日突然自国の非を認める、な～んて言う、どんでん返しもあるかも・・・その時の犯人用の人身御供はどうなるのか？その国には世界的な行事が迫っています。

この事件でも、その国内では情報操作により情報は非常に乏しく、都合の悪い事は出さないで国民の中

では「日本の陰謀説」など自国を正当化する意見が多いのです。もちろん自国の非を恥じるまともな見識の方もおられます。

私たちに出来る事は、食やモノ、コトなど日頃のへの不断（普段）の注意です。

第76話 平成20年2月26日

●お犬さまの再教育では飼い主もお勉強 ～犬の再教育が示唆するもの～（私見）

「あなた好みのお犬になるわ」の話題を昨年末にしましたが、片や飼い主の言うことを聞かない犬がいるという話題を耳にする事があると思います。アメリカにある犬の教育機関の1つに軍用犬や警察犬を育てた経験を持つ教官で運営されている「学校」が有るといいます。そこでは、一週間で犬を飼い主に従順になるように「教育（特訓）」するのですが、教育されるのは犬のみならず「飼い主」をも教育するのだそうです。

主に甘やかされたり、きちんと飼い主としての主張ができず「猫(犬?)可愛がり」されて育った結果、犬は「自分が一番偉い」と慢心したり「勝手気まま」な状態になってしまうからだと言われます。これは以前書きました「犬はいかにして犬になったか？」で書いた通り犬に本能として備わった部分です。

「学校」では「犬」と共に「飼い主」をも教育するのが特徴で、飼い主は真の躰と本当の優しさとは何か？を学びます。飼い主が教官の言う事に従わなければ即、学校から追い出されてしまいます。はじめある接し方をお互いに学んだ結果、飼い主と犬との信頼関係をようやく築けるのです。飼い主も考え方を変えねばならない。飼い主は、飼い主としての責任をまっとうせねばならない。犬に毅然とした姿勢を示さねばならない。また飼い主が先ずその気になると言う意識の高さが前提ですが・・・

具体的には、「入学時」には、犬は狭い檻の部屋に入れられ、飼い主は外の粗末なテントで暮らす事と成ります。今までの双方にとって快適な環境を断ち切り、これからの教育の厳しさを悟らせるのが狙いとされます。細かい内容は省きますがそれらの教育の結果、飼い主と犬との関係は良好になり本来あるべき関係を再構築してくれます。もちろん「卒業」してからも学んだ事を継続する努力は必要です。

現代の親子関係、子供への躰の無さ。子供を猫可愛がりして甘やかし、その環境で育った結果子供からは家庭内暴力、引きこもり等々のしっぺ返しをくらっている親がどれだけいることでしょうか？

「自由にさせたらええやん」と勝手気ままにさせて結果も同じ「自由には責任を伴う」事を知らないから教えられない、即ち、子供は知りようも無いのです。取り巻く地域社会も同じく教えていません。戦後アメリカの民主主義・自由主義思想が入って来たのですが日本人が悪いのかアメリカの伝え方が充分で無かったのか「都合の良い自由」には迎合し「責任」と言う嫌な事は避けてきた感があります。これは社会的な損失にもつながってしまいました。

本当の愛情とは甘やかすだけでは無く厳しさを伴っているべきだと常々思います。私は常々「怒る」と「叱る」は違うと言っています。「怒る」は「怒りのみの感情」のみで「叱る」は「良くなって欲しいと言う愛情を伴う感情」があるのです。「心を鬼にして」と言う事をいいますが、良くなって欲しいことを願って「叱る」はまさにそれなのです。その際「遠慮」は何も生まないが「配慮」は先々生きてくる事を念頭に置かねばなりません。もちろん褒めてあげる事も非常に重要です。

犬の躰を引き合いに出すのは人々に失礼な話かもしれませんが、この事は親子関係の改善、ひいては社会の改善に大きな示唆を与えてくれるような気がします。人も自然界の一員、動物なのです。

おまけ 自転車業界の好機と捉えられるか？

昨今の原油高、食を含んだ材料高は、企業のみならず消費者にも選択と集中を迫りつつあります。消費者の吟味する目が厳しくなり「良質」を求めるようになるというのは以前にも述べた通りです。安売りで安全・品質をなおざり気味にしてきたこの業界も「原油高」を背景に「良質」を追求し、消費者へのその開示とともに理解を得られる絶好の機会なのです。それが出来るか否かが今後の業界の行方を占います。「最初は高くても永く安心して（盗難対策も含め）乗れる自転車が結局安くつく」と言う訴求がどこまで出来るのか？それは他の業界にも言えることでしょう。当然、不断のコストダウンは必要です。

他の業界でも流通量が落ちれば当然脱落して行く企業も出てきますし、しばらくはこの状況で経済が振り回されるでしょう。

余談ですが、食品が高くなり飽食が減ると成人病も減って医療関連が困る？いやいや、あぶれたお医者さんが緊急医療の場に立ってくればね～

ちなみに私の好きな「伊藤ハムのロイヤルウインナソーセージ」は最近買ったら短くなっていましたア～(ToT)

量を減らして売値を維持？できる業界はうらやましいです。

第77話 平成20年3月4日

●アテらは平野出生の有名人 ～大阪・平野区出身の有名人達～

ちょっと重い話が続いたさけに(=続いたので)ちょっとミいーハアなソを・・・

丸一がでけた平野区は昔の名アで言うたら平野郷町を芯(=中心)にして瓜破村、加美村、川辺村、喜連村、長吉村、六反村なんかで、でけとったソですり(=構成されていたのです)。昔の航空写真を見てみい、村の辺に家が集まってて村同士は細っそい道でつながって、周り(=周囲)は殆ど田んぼと畑ばっかソやってん。今の丸一の八尾工場は平野区の根来(=すぐ横で)、ここいら辺(=このあたり)からも大和川の土手が見えとったちゅう程、周りになんも無かったんですり。その写真で目立っとなんが今イズミヤ(=スーパーマーケット)がおる(=有る)JR平野駅の辺の「日紡(現在のユニチカ、元の日本紡績)」の工場、汽車(=国鉄関西線)の線とチンチン電車(=南海平野線で30年前に廃線)の線路とかですり。ここいらへんは綿の栽培が賑やか(=盛ん)やった、ちゅう事もあつて紡績工場がでけた(=出来た)んですり。ちゅう訳で平野区の花は「綿の花」ちゅう訳ですり。

ここいらの明治からの流れで言うたら(中河内郡(未確認)→住吉郡→東成郡と言うお役所割りやったんが、住吉区→東住吉区と変わって34年前に平野区になりよったソです。あソ時は「新しい区の名前は村とかの名アから取るか(=採用しようか)」ちゅうこと(=と言う事)もあつて「俺ソとこの名アを付けたいネソ！」と旧村同士でエライ(=大層)揉めよつたらいしですり～。ほんデ(=結局)「平野区」に落ち着いたんやテ。

ほんデ(=次に)平野区出生の芸人ハンちゅうたら(=と言いますと)「三倉茉莉・佳奈」の双子「久本正美・朋子」の姉妹はん、ニューハーフの「はるな愛」「笑福亭鶴瓶」「笑福亭鶴光」「ホンコン」はんとかでんけ。ほんで阪神タイガースの「矢野輝弘」捕手なんかがいたはりますり。なんや(=「間投詞」デス)お笑い・バラエテえ系が多いでんなア～(^_^;

アテは昔、鶴瓶はんを平野のまつりで見かけた事、おましたデエ(=有りました)

ちょっと時を戻しまひよか。服部良一はんちゅう作曲家もその一人でんねソ。「青い山脈」「一杯のコーヒーから」「銀座カンカン娘」「蘇州夜曲」「東京ブギウギ」とか仰山の流行り唄で戦後活躍しいはって、ようけ(=沢山)3000曲もつくらはってんテ。上の歌謡で知ったはるんがおまっしやろか(=知っておられるのがあるでしょうか)？なんや大阪とは縁遠いハイカラな曲名でんけ。服部はんは昔ソに平野の魚屋の音楽隊にも居たはったテ聞いた事がおます。しやけど(=そうだけれども)「魚屋」とモダンな「音楽」ちゅうんは、なかなか結びつ

きまへんなア～

子供はんらは服部三兄弟っちゅうて^{おんな}同シ音楽の世界でエライ(=凄く)立派にやっただけはりますワ～

ほんデ先月(平成20年2月25日)韓国の新しい大統領にならはった「李明博(イ・ミョンバク)」はんは昔ソの加美村の出生やねんテ。「月山明博(つきやま・あきひろ)」っちゅう名アで4歳まで其処にいたはって、親御はんともども帰国しはってん。へテから(=それから)商売人(経済人)で成功しはって、政治家までならはって、めっちゃ凄いな人ですわんテ。ちょっと日本と距離置いたはるし「手強い人や」て聞いてまっさかい(=聞いてますので)日本(政府)のやり方が問われそうでんテ。これからもっときばら(=頑張る)事やと思いまソねソ(=思います)。

出生やあらへんけど(=では無いけれども)ロスとソウル五輪の柔道で金メダル取らはった「斉藤仁」はんは、なんや平野区に住んだはるっちゅう事で、子供はんの幼稚園の運動会であのごっついドンガラ(=大きな身体)^{ちい}小イそをうして「お遊戯」に出たはるんは、なんや可愛かったで～言うてくれはる人いたはりましたり。去年はアテの目の前を歩いて行かはんのを見た事ありますワ /(^o^ ホンに(=本当に)ゴツかったですワ～

※ 平野弁を文字にしたらホンニ書きにくいし読みにくいでんなア～意味無い繰り返しも多いしイ / (xox; コテコテ(=濃い)の表現ばっかソで意味不明やて思たさかい(=)で注釈入れましてソ…読みにくうて堪忍やデ～ (^;)

おまけ 活かされないマニュアルや最新鋭

5年程前のブリヂストン高崎工場の火災・十勝沖地震後の石油タンク火災などは、予兆があつたにも拘わらず、現場が危険の兆候を見過ごし、対処や報告を怠った末に発生した人災だったのは記憶にあるでしょうか？それらの事故後、定例朝礼で「危機意識の無さや経験の不足から今後、このような事がしばしば発生する」と言い切った記憶があります。果たしてその後、人の判断ミスや判断マヒによる事故が多発しています。

先月、イージス艦が漁船に衝突する不幸な人災が発生しました。2月の“おまけ”で「凜とした緊張感」云々の話を書きましたように緊張感や危機感、予測が出来なければこのような事が起こってしまうのです。最新鋭の艦という慢心、漁船が避けてくれるとの思い込みが無かったか？最新鋭の機器でも扱うのは人。いくら素晴らしいマニュアルでも運用するのは人なのです。目の前の負の可能性を事前に避けるものがそれらの欠如で活かされず不幸な事になるのは、これからもしばしば起こりうるでしょう。このような人災による不幸事を減らすには、まず人として基本的な資質を上げる努力が重要なのです。

(3月、月例朝礼の内容の一部をまとめました)

第78話 平成20年3月11日

●ノーラン・ライアンのピッチャーズバイブル

「球春」真っ只中、とすることでオープン戦の報道が^{かまびす}喧しく、春の甲子園・プロ野球の開幕も近づきました。悲しいかな、日本の(優秀な)選手達が雪崩をうったようにアメリカ大リーグに流れてゆき、さながら日本のプロ野球は大リーグの選手養成所・草刈場にと感じる今日この頃です。旧近鉄バッファローズの野茂英雄がアメリカ球界への門戸を開けた功績は大きく先人としての逆風も並大抵では無かったと思います。しかし、彼が作った道を当たり前のように通ってゆくさまは悲しいものです。野茂は近鉄時代よりも年棒が少なくなるのを承知で挑んだのですが、いまや端から年棒も日本とは雲泥の差ですから仕方の無い事でしょうか。日本の選手達の心を見透かした上で、日本の球団経営の遥か上を行く大リーグの経営戦略の前で起こるべくして起こっている悲しい現実なのです。その差は「ベースボールと野球の差である」と言い得て妙な論評がある事も教えてくれる人もおりました。

さて、大リーグ史上に燦然と輝くノーラン・ライアンと言う最強の豪腕投手がいました。1966年から1990年代前半の27年間の生涯成績は、807試合出場で通算324勝292敗、防御率3・19。また、5714奪三振、年間383個の奪三振記録、無安打無得点試合7度など、彼の記録は未だに破られていないものが多いのです。

驚異的な記録もさることながら、投手としては異例の46歳まで現役だったのも特筆ものです。彼の現役時代の逸話には、1972年に記録したギネス公認記録の時速162.5Km/hの速球、44歳でも156Km/hの直球を投げられたのを始め、1972年7月のノーヒット・ノーランの際、相手の最終バッターが「バットでは、奴の球は打てない」とばかりに机の脚をもぎ取ってバッターボックス立ったのだそうです。さすがに審判に注意されバットに持ち替えたものの彼への「敬意と驚異」を表現するには充分だったと思います。その年は、この時を含め2度もノーヒット・ノーランを達成しています。その後、FAで移ったレンジャーズ（テキサス）では現在のロッテ・バレンタイン監督の下44歳でノーヒット・ノーランを達成しています。

彼のメジャー27年間とこれら大記録を支えたのは、親からもらった丈夫な身体もあったのですが、それを独自のトレーニングや管理で大切に護り続けたことによります。

当時異端児と言われたピッチングコーチと組み、究極の自己管理・・・食事については低カロリー高たんぱくに徹し、牛肉は口にしない。トレーニングメニューや登板スケジュールはきちっと組み立てて規則正しい生活を続けたのです。しかも記録を作った日でさえ祝賀の飲み食いはせず、その日にしなければならない事を淡々とこなしたのだそうです。

それらは彼らにより「ピッチャーズ・バイブル(投手の聖書)」としてまとめられ、現在のメジャーリーグでは球界標準として活用されているのだそうです。

ライアン氏は、本年から最後に所属したレンジャーズの経営参画に招聘され、チーム作りに携わるそうです。彼の逸話の1つに小さな頃から牛を育てて売り、13歳の頃には既に自家用車を持つようになっていたと言うのが有り、経営的な手腕も備わっているようです。

日本では、横浜ベイスターズの工藤公康投手が27年目を迎えます。やはり、徹底的な自己管理が彼を支えています。「人に感動を与えるプロとしての努力」には頭が下がる思いです。

おまけ最近、新しいウイルスとは別に、過去に撲滅されたとされる病気の発症報告が増えて来ました「ウイルスの恐ろしさ」で述べた新しいウイルスの台頭、並びに「生きている地球3」で述べた封印された病原菌の復活が現実味を帯びて来たような気がします。ひつつこい様ですが「手洗い、うがい」を習慣付けて下さい。また病原菌の蔓延で万一「外出禁止令」が発令される事も有りうるので、天災の備えも含め2週間程度の保存食の備えをお勧めしますと言う事が新聞に書いてありました。

第79話 平成20年3月18日

●意外な校則！？

～校則とは誰のためのもの？～

4月になると、新入学・新学期の季節ですね。学校時代は遙か昔、と言う方も多いと思いますがそれぞれの学校に「校則」があった事と思います。まあ自分とこの校則がどんなやったかも知らんでエ～と言う方もおられるかも知れませんが、私が知っている範囲の中で興味深く感じた各地の校則を採り上げてみました。

先ず農業が盛んな地域から・・・「スイカを盗むと停学」で「メロンを盗むと退学」・・・処分の違いはメロンが高級なものだからでしょうか？「豚を蹴ったら退学」なんて言うものもあります。

他に「耕耘機などを運転してはいけない」寒い地域でしょうか「ちゃんちゃんこ・半纏はんてんを着て登校してはいけない」また、奈良県では「鹿に乗ってはいけない」などなど地域色豊かなものも見受けられます。

ある歴史ある高校ではバンカラな校風だったのでしょうか「下駄での登校は禁止」また「(女子は)独身男性の部屋に入る時はドアを開けたままにしておくこと」などと言うのもあったそうで、既婚の男性やったらええのんかな～？このようなものが未だに残っているのでしょうか？

生徒の安全に配慮したのもあったようで、自転車の事故が多く発生した事をきっかけとして「自転車に乗ってはいけない」が付け加えられたものもあるようです。また生徒が学校の天井から落ちたことで「学校の天井に上ってはいけない」鉛筆キャップを喉に詰めた事故で「鉛筆キャップ禁止」なんてものもあります。ちょっとお節介が過ぎやしませんか？

他方、坂道で生徒の自転車が先生と接触事故を起こしたのがきっかけで「学校の行き帰りの特定の坂道は自転車を押して登り降りしなさい」というのが出来たそうで、これは先生の安全の為(^o^)?

服装や髪型をきっちり決められたものもあるのですが、以下のものは現代では無意味です。「前髪は眉上1センチ」や「スカートの丈は床上37センチ」と言うものもありますが、スカート丈については合理的な数字なのでしょうか？身長や成長については全く考慮されていないという意見があります。

また、先生の抱えるものの一つに生徒の異性の扱いがあります。それらの「校則」は以下のものがあります。「街中で異性とすれ違う時は視線を合わせないようにし、足早にすれ違う」はマシですが「異性の急所を1分以上想像あるいは夢想しない」「異性の急所を5秒以上触らない」など校則として文字にするのも恥ずかしいのがあったそうです。これでも校則なんっ!?!「急所」と言う表現もすごいし～

最近、めっちゃ問題のある先生も多くなりましたケド・・・/(x x ; 卜林～

ある私学では女子生徒の髪用リボンの幅が1センチ以内と規定されていたのが、理事の娘が入学してきて彼女のリボン幅が2センチあり、他の生徒が抗議したところ突然2センチに改正されたのだとか・・・理事と雇われ先生の力関係なのでしょうね。当時の生徒は理不尽りふじんな思いをした事と想像します。校則とは本来、何の為、誰の為のものなののでしょうか？私達も政治屋・役人からも理不尽な事を押し付けられますよねエ～

第80話 平成20年3月25日

●政治屋と腐れ官僚 その1 怪人政治屋さん

(私見)

過日の新聞のコラムに戦後の政治家の失言で当時の吉田茂首相の「バカヤロー」解散について書かれていました。「バカヤロー」は大声ではなく小声でつぶやいたのがマイクに入ってしまった、すったもんだの挙句、解散に追い込まれたのです。マイクに小声が入って問題になる、と言うのは最近の料亭の偽装事件でも記憶に新しいところですね(^o^);

前出の発言は討議の流れの中、持論を貫こうとしてその発言をし、真意よりも言葉の野蛮さと議事を冒涇した事で議会解散に至ったのだとされます。一方、近年の政治家の発言は、意見・失言ともに、受け売り、無知、義理、意地などその場を取り繕つくろうものが多く感じられ「持論」の上に立ったものは極めて少ないと感じます。

過去の失政を棚に上げ、そのツケを今後こうなるから必要だ、とか、決められた事だからと強引に進めようとする。しがらみや、官僚との関係、恩義、選挙地盤等々が本来の方向を阻はばみ、政治を小さくしてしまいました。よくも悪くも田中角栄元首相は昭和40年代後半の日本を牽引された傑出した政治家の一人で、当時の官僚達の信頼を得てうまく使い国を導きました。そのときの副産物がお金になびく政治、いわゆる「金権

政治」「利益誘導型政治」だったのです。日本経済の急成長に伴い、それらが悪い方向に潜行し「政治家の信用」「お上としての役人の信用」を武器として日本の運営を「私物化」してしまったのです。当時の野党も然り。同じレベルです。

往時の政治家としての本分を貫いていたのが唯一「伊東正義」と言う方で、首相の座も目前にあった中で体調の不安もあったが「本の表紙を変えても中身は変わらない」と拒否。名前通り「正義」を貫いたのです。大物とは言われませんでした。政治家として「清貧」を貫いた方とされています。

現在の「野党」である民主党の党首は、元々自民党の幹事長であり故金丸信副総裁の腰巾着として当時、総理・自民党総裁指名する立場だったのです。故宮沢喜一氏が総理に内定した時、宮沢氏はヘーコラし、横で金丸氏と並んで、したり顔でニコニコしていたのが強烈に印象に有ります。という訳で今の党首は骨の髄まで「自民党」で田中角栄氏などの手法・流儀を学んだ錬金術に長けた政治屋さんなのです。何を貫くにしても人脈と力があるにも拘わらず、しがらみに足を取られて行動・発言が薄っぺらくなってしまっているのです。要するに中途半端。昔っからこの人はそうです。

与野党のこれら怪人政治屋さん達が税金で給与・補助金をもらいながらやっているのが国会での茶番劇なのです。税金を支払う気にもなりません。政治家の報酬は出来高払いにしないと。議会の空転、また議会をほったらかして遊びに行ってるのは税金ドロボーです。当選と言うハードルを越え、きちっと成果を上げたものが税金から成果に見合う報酬を得ないと納得いきません。その評価は有権者に委ねるのが良いと思います。裁判員制度より、議員評価員制度を実効した方が有効でせよ。政治家も本気になり、有権者も政治の動向に目を向ける一石二鳥となり、良い緊張のある為政となります。

政治屋たちは官僚や先輩・同僚、関係者への地位パッパ気配りで、国政の事を考えているよりも自身達の体面を守る事に汲々とし日本を「灰燼に帰させてしまう（なにもかも無くしてしまう）」いわば怪人・灰燼政治屋さん達なのです。

現状は何を優先せねばならないのかが置き去りにされ「玉虫色ではない」落としどころがある筈が、意地と見栄で国政をないがしろにし、政争の具(愚)としているのです。

戦後のような快人政治家はいないのか？今後、出現して欲しいものです。今は過去の良き遺産を食い潰している状態で、何とか「先進国」に仲間入りをさせてもらっているのですが、このままでは世界から取り残され、相手にされなくなります。近い将来、日本は世界から色んな兵糧攻めに遭うよ～

第81話 平成20年4月1日

●政治屋と腐れ官僚 その2 官僚達のカリバニズム(人食い儀式) (私見)

珍しく舶来言葉の題名です。昨今の政治の流れを見ていると、官僚たちに翻弄されている政治屋の姿を目の当たりにする事が多くなりました。その最たるものが現国土交通省の大臣です。さながら国交省の宣伝係といった様相です。世論と野党、更には与党内からも批判がでる始末。厚生労働大臣も最初の勢いはどこへやら・・・このていたらしく(だらしなさ)はどうしてなのでしょう？

去年は、安部内閣のもとさまざまな大臣の不祥事が表に出て辞任、更迭、さらには自殺者まで出ていたのは記憶に新しいところです。はて、それまで政治家の不祥事発覚は民間レベル・海外からの情報が多かったのですが、あの時期は「これでもか」と言わんばかりに矢次早に出た情報は、野党から突きつけられたものが多かったのも大きな特徴でした。

省庁と言うお役所は仕事柄、情報収集も重要な仕事の一つなのですがその過程でさまざまな政治家の情報も入ってきます。その中には良いこともあるのですが「不正」「不祥事」なども含まれている訳です。安部内閣

も小泉路線を引き継ぎ、改革を推進しようとしたものの官僚達は「これ以上我々の城に手を突っ込むとケガをしまっせ」と言わんばかりに不利な情報を漏らしたのです。

松岡農相の場合、遺書があったものの本当に自殺だったのかも疑わしいと思ってしまうのです。何れにせよ底知れぬ闇の力も働いたものと推察します。私に言わせて見れば見せしめですね。政治に不自然なブレーキがかかっている時はこのような官僚が発信した情報でのユスリまがいの事が裏で起こっている可能性も考えられます。ようするに官僚達にナメられているのです。

一方、野党も官僚達の手玉にとられて利用され、思うツボにはまり手先となっているのです。これもまた情け無い～このように外堀を埋められ、にっちもさっちも行かなくなったのが安倍政権の末期なのです。かくして政治屋は官僚達の情報に恐れ、身に憶えの有る悪事が自らの首を絞めてしまう無言の圧力となってしまう金縛り状態に陥ったのです。と言う訳で政治屋達は官僚達の傀儡(あやつり)とならざるを得ないのです。小泉元首相も最後まで踏み込めなかったのもそう、福田首相もしかりです。官僚達が足を引っ張っているのです。

身から出たサビとは言え、不正の情報が官僚達の保身の手段とされている現状も情けないし、これが原因で国政が乱れている現状は海外からも呆れられています。政治家は身边をきれいにするか、そんなことを跳ね除ける力がないと。クリントン前大統領は自ら蒔いた不祥事をしのいで務め上げました。

しかし、一方では油断して自らの情報に足をすくわれている官僚達の現状も垣間見え、混迷を深めていますね。

今回、福田首相が、ガソリン税に関し一般財源化を明言したのは、官僚や政治屋への融和姿勢からの転換と、しがらみとの決別の表れであれば・・・と思いたいのですが。

第82話 平成20年4月7日

●チャールズ・ブロンソンのちょっといい話

チャールズ・ブロンソンはハリウッドの俳優で男臭さと演技力の高さでその地位を確立し活躍していました。彼は15人兄弟!!の5番目(五男・デショカ?)で、高校卒業後は家計を助けるべく炭鉱夫を始めさまざまな職についたそうです。その後、軍隊に入隊。B29の射撃手として活躍の後、美術学校にはいり舞台装置を手がけたのを始め、裏方やエキストラを務めたそうです。出演映画として「荒野の七人」「大脱走」「さらば友よ」「雨の訪問者」主演をした「狼よさらば」「デス・ウィッシュ」シリーズなど数多くの名作に名を連ねています。

さて、彼は昭和40年代～50年代に流れていた男性化粧品のテレビ宣伝に出演し、決め台詞で

「ウーソ マンダム」と言いながら手でアゴをさする場面が流れていたのを憶えておられる方もおられるでしょう。

彼はその宣伝の出演依頼を受けたとき「私の初主演映画だ」と言って快く引き受けたのだそうです。例え宣伝であっても「主演」と捉えたのですね～o(^o^)

撮影の契約には撮影時間に関するものがあり、それは「撮影時間は午後5時まで」だったのだそうです。ある日、準備の都合で撮影開始が4時半になってしまい「このままでは5時を超えてしまう～」と撮影関係者に緊張が走ったそうです。「今日は、撮影できないわ」と・・・

「これから撮影ですけど・・・」と恐る恐る言ったところ、撮影班の気持ちを察した彼は「俺の時計はよく狂う、今日も1時間進んでる」と言って針を3時半に戻したのだそうです。

周囲は爆笑し「彼はいい奴だ!!」と撮影の場は和み、それ以降の撮影がトントン拍子に進んだのは言うま

でもありません。その時の撮影監督は大林信彦氏でした。

この宣伝のお陰で大ヒットした男性化粧品マンダムは、それまで「丹頂」だった社名を「マンダム」に変えたのは余りにも有名な話です。また、このテレビ宣伝は外国人俳優起用などのさきがけとされ日本の宣伝業界の歴史を作りました。

ちなみに「丹頂」の前の社名は「金鶴^{きんつる}香水」で「チック」と言う整髪料を作っていた事から元の社名の「鶴」と「整髪料」に絡めて頭のとっぺんが赤い優雅な「丹頂鶴」を由来とし「丹頂」となったと想像します。

余談ですが昔、友達に「アゴに手をあてて見い〜」と言ってその仕草^{しぐさ}をしたら、すかさず「ウ〜ン マンダム」と言う突っ込みをするのが流行ったのを思い出しますウ (^y^) ウン マンダム!!

第84話 平成20年4月15日

●心通わせる人と馬達の話

日本の競走馬と言えば一世を風靡した常勝「ハイセイコー」「テンポイント」などが記憶にあるでしょうか？競走馬の名前は馬主の思いが込められているのですが、商品名などの固有名詞は認められないのだそうです。例えば「テンポイント」は、新聞の一番大きい文字の規格の大きさを示し、常に大きく表紙を飾る話題になる事を願った名前と聞いた事があります。別の意味で有名だったのがデビュー以来100連敗以上した「ハルウララ」というほのぼのとした名の馬ですね。

競走馬は、いわゆるギャンブルとしての競馬、技能を競う馬術という二つに大別されると思います。

そんな馬の中で「サクラオーロラ」と「タカラコスモス」と言う目を患った馬術競技馬がおりました。

(以下「サクラ」「タカラ」と表記)

サクラは、福島県の乗馬クラブに所属していたのですが左目の病気を患い処分されるところでした。それを知ったかつて馬術の相棒だった青森の女性が頼み込んで引き取り、手術をして失明と命の危機から救ったのです。今は、リハビリのかいあって片目ですが他の馬と同じように動けるようになったのだそうです。彼女はこの馬と共に今年の国体を目指して練習に励んでいるのだそうです。

さて、もう一頭のタカラは元々競馬に出ていた牝馬ですが成績が振るわず馬術競技に転向、優勝を含め優秀な成績を残したそうです。しかし、不幸なことに白内障で治療の甲斐なく引退を余儀なくされ、馬術の関係者が引き取ったのだそうです。温泉・薬草で治療に専念したものの病状は更に悪化していったのです。当然、競技馬としての活躍は期待できません。馬として自尊心の高いタカラの世話は大変で、目と共に病んでしまった心を開くのは並大抵の事ではなかったそうです。馬もヤケになるのです。精一杯の看病に次第に心が通じるようになり、なんとかタカラに生きがいを見つけてもらおうとしたのが子育てでした。盲目の馬の子育てで注意しなければならない事と言えば、知らぬ内にわが子を踏みつけてしまう事でした。そこで仔馬の首に鈴をつけ、わが子が近くにいる時はじっとしているようにしたのだそうで周囲の工夫と助けもあり立派に子育てをしたのだそうです。

ところで、男女を問わずに競う唯一の競技である馬術では、北京オリンピックに66歳の法華津^{ほけつ}氏が出場。先週、調整先のドイツより帰国されました。東京オリンピック以来の出場で日本人では過去最高齢だそうです。ソウルオリンピックでも出場選手だったのが、馬が検疫で入国できずに断念、満を持しての挑戦だそうです。活躍を期待したいものです。

法華津氏は50歳の頃「ようやく馬と本当に心が通じるようになった」と言われています。悟りを開いたようなものでしょうか？今回の出場は素晴らしく相性の良い馬との出会いがもたらしたもので、法華津氏が思った事を馬が的確に察知し一体となって競技ができるとの事です。

法華津氏の話、「サクラ」「タカラ」の話とも「人と馬との心の交流」による信頼関係が共通したことでしょ
う。

でも、人との交流と心を踏みにじらんとする国での五輪はどうなるのか？ (^_^) ;

第85話 平成20年4月22日

●^{おのおのがた}各々方、油断めされるなかれっ!! 裁判の真偽と正義とは？

過日、甲南大学の男子学生が知り合いの女性を使って電車内の痴漢事件をでっち上げ、慰謝料を取ろうと
した事件は記憶に新しいところです。被害者を「演じた」女性が罪の意識に苛まれ痴漢がウソだった事を告白
した事で犯人扱いされた男性もようやく疑いが晴れ、釈放されたのでした。が、その男性や家族はいかに傷
ついたことか！その心労は言葉では言いようも無いものだったでしょう。憎むべきは、アホな犯人たちです。

アメリカ在住の業界先輩・小野沢氏に教えてもらったのですが、アメリカでは色仕掛けのワナで失脚する
殿方も多く、莫大な慰謝料も請求される場合もあると聞きます。確かに日系の米国子会社でも多々発生して
いますね。社会的地位や名誉を失い、その上追い銭まで取られるハメになる。そんな事を生業として企業を渡
り歩いている人もいるのだとか。

この場合、男性の下心をくすぐりワナにはめると言う本能に働きかける方法ですね。クリントン前大統領も
そのワナに掛かり失脚寸前まで追い詰められたのを憶えておられるでしょう。これらは加害者＝被害者？の
自制心も問題なのですが・・・/(^o^);

日本では、若い女性の中に軽い遊び心や小遣い稼ぎ目当てでそんな事を仕掛けたり、痴漢をでっちあげた
り、と言った事もあるようです。そんな事で人生を棒に振ってしまっただけではたまりませんね。

ちなみに日本での痴漢の有罪率は99%と言うオドロクべき数字だそうです。オットロイ～ (*_*);

殿方はホントに気を付けてわが身を護り、疑いを掛けられぬようにせねば。明日はわが身・・・な～んて事も!!
さて、早稲田大学の元教授で痴漢行為や手鏡覗きの嫌疑で2度逮捕された「植草(一秀)」氏の事を知らない
人はいないと思います。「手鏡教授」などと揶揄されているのも有名な話です。これらに関し、先週の4月
16日には最高裁では控訴棄却の判決。それに対し彼はこれからも「冤罪」を晴らすよう戦い抜く姿勢だと
聞きます。このテの事件は証人が大きな証拠とされます。デッチ上げも簡単です。

この事件について「フォーブス」と言うアメリカの有力経済誌の元太平洋局長ベンジャミン フルフォード氏
が疑問を投げかけておられます。この方は被告となった植草氏と会い話を聞いた事もあるそうで、植草氏曰
く「自分は国策逮捕(国の都合の悪い事を隠す為の逮捕)された」などと言っていたそうです。それらを聞
いてフルフォード氏は最初「懲りない人だな」と言う印象を強く持ったそうです。先入観を持って接したの
で余計にそう感じたのでしょうか？しかしながら、事件取材してゆくにつれ「奇妙な偶然の重なり」がある
事に気づき「冤罪」や「ワナ」の可能性が浮上して来たと言うのです。

「事件」の直前、植草氏は米国ファンドと大手銀行株などが絡むインサイダー取引疑惑についてかなり核心
に迫っていたとされます。このインサイダー事件は、かなり込み入って分かりにくい構造にしているもの
「りそな銀行にまつわる金融事件も、ロックフェラーやロスチャイルド系の金融機関の仕組んだもの」であ
り「日本の政府・自民党がその片棒を担いでいる」という大疑獄事件の可能性もあると元太平洋局長は言っ
ておられるようです。だから先の「国策逮捕」と言う表現が出るのです。

そのインサイダー疑惑の解明では、ある新聞記事を書いた記者が直後に自殺(とされる事件)。また国税庁関
係者が植草氏と全く似たようなわいせつ疑惑で逮捕されたりしているのです。植草氏もその疑惑に関する本
の出版寸前にあの「事件」があったのです。これらが先に書きました「奇妙な偶然の重なり」の一部とされます。

フルフォード氏は「百歩譲って万が一痴漢行為が事実だったとしても植草氏のインサイダー調査結果は是非公表してもらいたいものだ」と言っておられます。かく言う私は冤罪かどうかは中立の立場ですが、植草氏が無実だと思いたいのです。これらの事実が過日「政治屋と腐れ官僚」の中でナントカ還元水の松岡農相の自殺がそうではないかも知れないと書いた根拠の一つです。関係者達への見せしめと一石二鳥なのかも。

話がそれました、男女に関わらず「冤罪」と言う落とし穴にはくれぐれもはまらぬ様にd(´へ´)ノ…デスところで1年先の来年5月（実質7～8月）からは「裁判員制度」が始まります。我々がいつ「裁く側」に立つかわかりません。被告を「犯罪者」と決め付けて裁判に臨むのと「もしかしたら冤罪？事実と少し違いかも？」と臨むのでは雲泥の差があります。犯罪者だと言う先入観を持てば被告に不利な証拠しか見えず、無罪である可能性の証拠を見過ごしたり無視しがちです。偏見をいかに取り去るかが被告の運命を左右する可能性があるのです。もちろん謂れの無い罪で裁かれる側に回る事も・・・

クバラ、クバラ（´0´）；

※一部小野沢氏、フルフォード氏の引用文あり

追記：^{すき}この荒んだ風潮の中、冤罪に巻き込まれぬように気をつけねばならないし、もの事の判断力を身につける事の大切さを伝えるには、このような女性の絡んだ事件を引き合いに出すのがわかり易いと考えたと言う事をご理解下さい。

第86話 平成20年4月30日

●「小皇帝（ショウファンツ）」と「愛国教育」 ～中国の内憂～

子供の日が近づくと思い出す事があります。私の幼い頃、家には鯉のぼりが無く近所のおもちゃ屋で竿についた小さな鯉のぼりを買ってもらった事がありました。それを見つけた父は「こんな小さいしょうむ無鯉のぼりなんか買うな！返してこいっ！」と怒り、泣く泣くおもちゃ屋に返しに行ったのです。その頃の工場経営も大変苦しく、大きな鯉のぼりを子供に買ってやれない父の悔しさが今となっては解ります。結局は、家に鯉のぼりが来ることはありませんでした。しかし「鯉のぼり」もなかなか見かけなくなりましたね。

ところで、中国の「一人っ子政策」をご存知の方も多と思います。人口の増えすぎを抑えるため、一家族に一人の子供しか認めないと言うものです。違反をすれば罰則もあるようです。その政策から約30年、それらの弊害が中国を揺るがしかねない問題を引き起こし初めているのです。先ず、跡継ぎや男手の問題で女の子は産まない、育てない事で男女の人口比率がおかしくなっている事。そのため結婚出来ない男性が増えているのです。万が一、二人目が出来ても罰金が払えないため戸籍登録せず、教育、医療などの公共サービスを利用できない子供もいると言います。また、彼らは戸籍が無いと身元がはっきり証明出来ず、就職もまともにもできない。これらの人口が数千万人いると言われていています。彼らは、黒核子（闇っ子）^{やみ}と言われ、まともに社会に相手にされないので止む終えず密出国したり闇社会に身を置く事も多いとされます。奴隷状態で働く子供のニュースも良く聞きます。今朝のニュースでもありましたね。

方や、一人っ子で大事に育てられすぎた挙句「小皇帝」（女子の場合「小皇主」）と言われる子供も増えたと言われます。親の愛情と期待を一身に注がれて精神的な成長が無く、日常の当たり前の事が出来ない・理解できないわがままな子供達が増えているのです。要するに過保護でわがままに育てられた子供です。

また、一方で学歴崇拜^{せうはい}の中で勉強や習いごとを強^しいられ、可愛そうな年少時代を過ごすと言った子供も多いようです。まるで高度成長期の日本を見るようです。いびつに成長した子供たちの将来と社会は今の日本の現状と重なって見えるのは私だけでしょうか？

さて、中国の教育方針の中に「愛国教育」というものがあります。自国を愛する事はごく自然な事ですが、この場合「中国政権への絶対的忠誠」とともに「中国の言う事、する事は全て正しい」と言うのが根底に流

れているとされます。それらを更に煽るように昨年、愛国教育の拠点として「南京大虐殺記念館」を造り、日本が戦争中「中国にどれだけの被害を与えたか？」を発信しているのです。これは抗日の象徴とされ、日本へ謝罪を求めつつ、日本の譲歩を引き出す切り札として活用しているのです。その展示内容には、被害の数字を増やしたり、捏造写真など、いかにもこの国らしい情報操作もてんこ盛りあるそうです。それらに対し日本の政府は見直しの申し入れをしたものの、その後どうなっているのやら。

中国の愛国教育は両刃の剣で、国内をまとめるには役立つのですが、行き過ぎは歯止めが利かなくなる恐れがあるのです。昨今の聖火リレーでは、フランスに対する抗議行動が激しく行われたのですが、それを下手に抑えようと「愛国は国の方針なのに、なぜ抗議行動がダメなのか？」と逆に中国政府に矛先が向くのを恐れたのです。愛国教育が徹底しすぎたお陰で、中国政府もそれらに大義名分や正当性を打ち出すのに巧みな詭弁でしたたかに人民を動かさざるを得ないのです。しかし、人民と世界の世論の狭間で苦しい舵取りと感じます。

「抗フランス運動」がいつのまにか一昨年のような「抗日運動」にいつすりかわるか？の可能性も孕んでいます。しかし、あれだけ激しく「抗フランス」を訴えていても「カルフル」には、買い物に行くそうです。変なの・・・（へ；? そういえば、日本の製品も品質が良いと、ありがたく買っていきそうな・・・

第86話 平成20年5月8日

●シャープの選択 ～千里から天理へ～

1970年に大阪で万国博覧会（以下、万博）が開催されました。ちょうど私が小学生高学年で高度成長期の真っ只中の時代だったのです。名だたる企業を始め、各国のパビリオンが賑やかに立ち並び、テーマであった「人類の進歩と調和」と見たことの無い物や外国人にわくわくしたのを思い出します。大阪の企業も松下電器、三洋電機、富士銀行、ユニチカ、サントリーなど大阪発祥の有名処もパビリオンを連れ、華やかさを競っていたのです。その中で当時、大阪の中堅家電メーカーであった「シャープ」は何故か参加していなかったのです。

万博の話が持ち上がった頃、当時の社名が「早川電機工業(株)」であったシャープの内部では「大阪の企業やねんから、当然出展せなアカンやろ」と言う意見が社内ほんけんがくがくにあり、喧々諤々の論議が続いたと聞きます。その当時で万博の出展予算はおよそ10億円で、出展のための予算は計上していたと言います。まあ、当時のシャープにはさほど負担になるものではなかったと思います。しかし、結論は「出展しない」でした。

宙に浮いたその予算で奈良県天理市に総合開発センターを建設することにしました。半年でとり壊すパビリオンよりも、企業体質の強化に専念することにしたのです。家電メーカーからの脱皮を果たそうとしたこの決断は「千里から天理へ」の英断として当時、大きな話題を集めたのです。

この決断により、単なる家電メーカーから今日に繋がる総合電子機器メーカーの礎を築いたのです。

もし、万博に出展していたら今日のシャープは別の企業形態だったかもしれませんね。

もちろん不断の開発努力があるのは当然ですが、企業の投資とは難しいものです。

もうすぐ堺に大きな液晶パネルの工場が出来ます、また、姫路には松下電器産業が中心に大規模なプラズマ・液晶の工場の立ち上げを決めました。この業界が、またまた大きなヤマ場を迎えるのは必至の情勢なのです。それらの投資と今後の戦略はそれぞれの企業の命運を大きく左右するでしょう。

余談ですが「シャープ」とは、昔、早川電機の創業製品が「シャープペンシル」であったのがその由来とされます。

おまけ 偶然のパンダか？

近所の大国から偉い人が来ていますね。非常に偶然にパンダの「リンリン」が天寿をまっとうしましたね。しかし、日本の報道は、こぞって「替わりのパンダ」の事を一番最初に話題にし、肝心の「油田」「人権」「毒入り餃子」等々の事は二の次にしにしていました。この国の思うツボです。日本国民の関心をそらし、報道もそれに迎合する(人の機嫌をとる)姿勢はいかがなものか？それにしても「パンダの死」はあまりにも突然で時期を選びましたね。また諸問題をうやむやにする「小道具」としての利用価値は抜群でした。政治の駆け引きの道具になってしまい、かわいそうな事です。

第87話 平成20年5月13日

●イースター島に見る小地球 ～イースター島の悲劇に学ぶこと～

「イースター島」と言う島の名を聞かれた方も多いと思います。有名な「モアイ像」がある島ですね。そもその名は、発見された日がキリスト教の「イースター祭」だったからとか。

ちなみに「イースター祭」とは、イエス・キリストがよみがえった事を祝う復活祭と言う事です。

島に上陸した調査隊が目にした光景は多数の倒された人型の石像だったのです。その荒れた状態は長年大きな謎とされていました。それらが「モアイ像」と言われ、近年日本の建設会社の協力で並べなおされた事はニュースでも報じられました。しかしモアイ像が何の目的で作られたのかは未だに解明されていないのです。

さて、この島に人が渡って来て棲み付いたのは4世紀頃からとされるのですが、(諸説有り)調査によると、当時のイースター島は椰子の木が生い茂る亜熱帯雨林の気候で食料が豊富。人が棲むには格好の島だとされます。「モアイ像」は10世紀頃から製作が始まったとされ、考古学上貴重な遺跡も多数あり、当時の繁栄を伺い知る事ができます。

島の繁栄により、人口増加をもたらし、それに伴う農耕地の開拓、モアイ像の移動やカヌーに使う木々の使用による森林の伐採などでさまざまな弊害が生じました。

その弊害とは森林の伐採により土砂の流出が起こり、農地が荒れて作物の収穫が激減し、漁に使うカヌーも木が無いので作る事も出来なくなったと言う流れです。その結果、重大な飢餓に至ったとされます。また、食料や材木などの資源を巡る部族間紛争が起こり、その中で「モアイ倒し戦争」も勃発したとのだとされます。

研究によると、イースター島での森林伐採と人口の減少は相関関係が認められるようで、人口の増加は、森林の減少と反比例したと推測されるのです。自然のシクミの一つに「生物の繁栄と衰退の制御」があると言う説があり、その一つに「繁栄し過ぎて自然に負荷が掛かりすぎれば、その種を衰退へと導く作用」があります。その為に増える種あり、道連れに衰退せざるを得ない種もある訳です。もしそうならば、それらは必然的に起こった事であると言う見方もできます。

自然破壊—食料不足—紛争—人口減少・・・大昔に起こったことですが、自然のバランスの崩壊と飢餓、資源の不足、それに伴う紛争などを見てみますとまさに、地球上の人間が関わって起こっているさまざまな現象の一端が垣間見える「小地球」を感じます。

おまけ 自然の^{どうこく}慟哭が示唆するもの

最近、立て続けに強毒性の鳥インフルエンザの犠牲になった鳥のニュースが聞かれます。日本は渡り鳥の集散場所で、アジア大陸の端に位置しそれらウイルスの吹き溜まりとなる懸念があります。まだ数羽とは言

え氷山の一角。もう既にかなり潜行していてもおかしくない状況と言えるでしょう。ニュースでもよく見聞きされるような気候の変調を始め、今まで無かったことが起こっていますね、

生物で言いますと、カエルなどの爬虫類^{はちゆうるい}を侵すツボカビ。また、最近ではコウモリにも正体不明の病気が発症しはじめているのです。昆虫などを主食とするこれらの動物の減少は農作物を荒らす害虫の増加、また、それに伴う食物の不足、病原菌を運ぶ蚊などの昆虫の増加を意味します。自然からの警鐘は確実に見えているのです。このような動物の正体不明の病気、若しくは治療法不明の病気が人類にも発症する可能性は充分にあります。また、過去に撲滅や征圧されたとされる病気の「復活」もあります。

医療研究機関の迅速な取り組みと、私たちが出来る手立てをしなくてはなりません。とりあえずは「うがいと手洗い」また、これからの季節は「防虫」となります。食料難対策は…脚光を浴びている iPS 細胞の植物への応用などは出来ないのでしょうか？例えば、栄養素を含む部分だけの植物細胞の培養が出来ればねエ。

第 8 8 話 平成 20 年 5 月 21 日

●プリン体と痛風の話

ビールのおいしい季節になりましたね。このごろ店頭で「プリン体カット」とうたったビールや発泡酒を見かけます。プリン体って何がどう悪いものなのでしょうか？

プリン体とは、細胞の核に含まれる DNA の主成分で、エネルギー伝達物質のもとになる大切な物質です。「プリン」の語源は「プリンヌクレオチド」で、お菓子のプリンとは無関係なのだそうです。細胞の核に存在するので、ほとんどすべての食品に含まれ、細胞数の多い食品ほどプリン体の含有量が多いと言えます。

一般にイクラやタラコ、キャビアのような細かい卵が集まったもの、またレバーやあん肝と言った食べ物には多いそうです。意外にも、にわとりの卵は細胞が 1 個なので、プリン体の量は事実上ゼロに近いのだそうです。プリン体と野菜は無縁のようですがホウレンソウやカリフラワー、キノコなどには比較的多く含まれるのです。これまた意外ですね～

プリン体は肝臓で分解されると老廃物として尿酸に変わるのでそうです。身体に余分な尿酸は排出されるのですが、血中に溶け切れなくなる程濃くなると結晶になるのです。学校の実験で塩水から塩の結晶を作るのを憶えておられるでしょうか？限度を超えて濃くなると結晶として現れるのです。

体外への排出が少なかったりすると、尿酸値の高い状態が続き、更に高くなると腎臓などに結石ができたり、足の親指などの関節が痛む痛風が引き起こされるのです。尿酸の結晶はちょうど星型の金平糖のようにトゲが出ていて、そのトゲが神経細胞を突く事により痛みが発生すると聞いた事があります。足の親指に痛風の症状が出やすいのですが、場所を選ばず、関節部分のどこに痛みが現れてもおかしくないのだとか。

ちなみに「痛風」とは「風が吹くだけでも痛みが走る」と言う症状からこの名が付いたのだそうです。

アルコール類の中で、ビールなどはとりわけプリン体が多いので、プリン体カットは、喜ばしいことなのですが。一方でプリン体の量が通常ビールを飲んでも尿酸値にはほとんど影響しないと言う実験結果も報告されています。ちょっと矛盾を感じますね。その実験結果とは、プリン体が普通にある通常のビールを飲んでも 5 時間後には尿酸値がほぼ元の数値に戻ることが確認されたと言うものです。

つまり、プリン体の少ないビールを飲んでも余り意味が無い？また、プリン体を含まない他のアルコールを飲んでも痛風になる事もある事から、過度の飲酒とそれに伴う酒の肴が原因の可能性も大いにあると考えられますね。

暑い季節には汗をかいて血液が濃くなりがちなので、心配のある人は結石や痛風の予防策として出来るだけ水分をとる事が大事なのだそうです。暑いときはビールもいいけど適切な水分が大切と言う事ですね。

おまけ

中国上海自転車ショウへ行かれた方の情報

- ①日本向けの展示内容ではなかった（値段ばかりを言ってくる日本は相手にしたくない）
- ②欧州のダンピング課税（不当に安く売ったので制裁の意味の課税で通常よりかなり高い）が緩和されるのでそちらに商機を見出している。
※ちなみに、欧州はオランダを例に取りますと自転車の平均単価は7万円。日本では1万～2万円。
- ③日本のバイヤーの値切りに対しては、強気
- ④中国国内市場に目を向け始めた（中国国内商取引は、売り掛け金回収の不安が付きまとうので信用のある所との取引）
- ⑤材料などの値上りに対し工場出し値を上げられない中小の自転車工場の倒産が増えている
- ⑥品質がきちっとしたメーカーは、材料の値上げを工場出し値に転嫁している→強気である

第89話 平成20年5月27日

●自分さえ良ければ ～判断基準の変化（曖昧化）とモラルの崩壊～（私見）

近年の世情を見ていると、ひとたびルール違反、モラル逸脱などが発覚すれば非常に厳しい世間の批判にさらされる事をよく見聞きしますね。

さて、物事の判断基準の中に「善(良)悪」と「損得」が中心にあると思います。世の批判でされされる事の中には「損得」を追求し過ぎて失敗した結果「善悪」が問われる構図があるのでしょうか？ただ、それは当事者が第三者の知るところとなった場合だけでしょうか？

最近、判断基準の物差しが「善悪」よりも「損得」に軸足が来ており自己中心的な、人の気持ちを省みない人たちが増えているような気がします。自分しか見えず、善悪の判断ができない、だから反省も無いのかも・・・それらは、注意をされる事がない、注意をする社会・会社のシクミが無いなどで歯止めが無くなり、増長してゆくのです。

「善悪」は、自分のみならず社会や他の人の為にもなるか？であり「損得」は主に自分（達）の利益（お金だけではない）が中心に優先されてしまうものと思っています。過去に「優越感のもたらすもの」と言う文章を書きましたが過去の日本の繁栄の中、根拠の無い優越感がはびこってしまった結果「善悪」の判断力が欠如し「損得」が判断基準の中心となったのでしょうか？

たとえばサービス業という業種がありますが、これは「お客さんに対し主に精神的な満足を得てもらうもてなしの心」が根本にある筈なのですが、時には「お客さんのわがままを呑み込んで対応し、事なきを得る」場合が多々みられます。三波春雄は折に触れ「お客様は神様です」と言っていたのは有名な話ですが、それは「よいお客さま」に対する言葉であって理不尽なわがままを押し付けてくるのは「お客様」とは言いがたいのです。その部分をサービス業が「お客様を怒らせてはだめだ」と恐れ、線を引いて対処できないのです。過去のそのような対処の積み重ねで勘違いする人たちが増え、わけの分からない事を言ういわゆる「文句言い（クレーマー）」が増長してきたのでしょうか。文句の言う人の多くは自己中心的で、心が豊かになる環境が無かったり経験が出来なかった可哀想な人たちなのかも知れません。もちろん「その会社などが本当に良くなる事を願って注文をつける人がいますが、意図してサービスや製品などの向上につながるようにとの願いを込めたその人の親心があるのならそれは“意見”なのだと思います」

現在、昔は当たり前を守られてきた良き不文律が条例なり罰則などで損得の判断基準で良くない行為を抑えようとする風潮がありますが、これも悲しい話です。

戦後60年以上経ち物質的には豊かな中で生きてきた私たち、躰や教育の面でその部分が置き去りにされ、文明が発達して日本のよき文化がすたれたのだと感じます。家族構成が変わり、分からない事は自分の親ではなく身近に入手できる情報に頼りそれを信じる。微妙な変化は経験で得られるものですが、いきなり薄っぺらい情報から入れば経験に裏打ちされた基礎が無い分、応用が利きにくいとおもわれます。知識は、知恵との共同作業で色んな応用が利くよう脳にその機能を与えられています。小さい時に大事なものは知識もそうでしょうが知識を活かす「知恵」を養い「善悪の判断」「躰」を身に付けてあげることがもっと大切なのだと感じます。「三つ児の魂百までも」の言葉は「幼い頃にきちっと手を掛けて育てればその子は人生を誤りにくいですよ」と言う先人の教えなのでしょう。一番手を掛けてあげなければならぬ時期に手を掛けず甘やかした結果、子育ての手抜きへの手痛いしっぺ返しを自ら食らっている親などが如何に多い事か！

その失われた人と人との交流を如何に現代に通じるよう復活する努力をするかが鍵となるでしょう。子供のいない私が偉そうにいえる筋合いのものでは無いでしょうが、客観的にはそう感じています。

お互いを尊重しあえる社会を取り戻すのはそれが失うのに要した戦後60年と同じくらいの年月を要するのかもしれませんが。水は低きに流れ、もの事は易きに流れます。楽な方や安定した方向へ行こうとするのは自然の流れですが、それらに果敢に向かって行けるのは人間の知恵と信じます。自分の損得を主張しすぎると、助けてもらいたい時に助けてくれる人は周囲におりません。その時でも「なんで助けてくれへんねん！」と駄々をこねるのです。権利を主張するばかりで自分の義務を置き去りにしているのです。そう言う屈折した自己主張をする人たちが訳の判らない裁判を起こすまでに至ったりするのです。しかし、行き過ぎた事は必ず形を変えてでも皆の知恵と努力で正常に戻る筈だと確信しています。その原動力は「良心」と「困った事態」を解決しようとする強い意思だと思います。

おまけ

電動自転車情報

正確には「電動アシスト（補助）自転車」と言い、現在、現在原付バイクとは違い道路交通法上では自転車と同じ「軽車両」として扱われている。この基準は、自転車を動かすのに必要な力の50%未満の補助動力を有するものが「電動アシスト自転車」としてナンバープレート（税金）、ヘルメット着用義務の必要が無い。現在、経済産業省での検討事項の中で、この補助動力を軽車両の分類のまま60～70%まで認めようとする動きがある。

ちなみに、街中で走っている「こがなくても走っている電動自転車」は、補助動力が100%であり違法です。

※指示器・ブレーキランプが無いので整備不良。車両登録義務違反（ナンバープレート無し）。ヘルメット着用義務違反。車輛往来違反（右側通行）、飲酒であれば原付バイク、自動車と同様の罰則など。

第90話 平成20年6月3日

●サイダーよもやま話

冷たい飲み物が恋しくなる季節が近づきましたね。過去に「ラムネ」に関する事は何度か採り上げてきましたが、もう一つの伝統ある飲み物に「サイダー」があります。

サイダーの由来は、ある人が「この変わった飲みもんは何や？炭酸の水か？」と聞いたところ関西弁で「さい

だ(そうです)」と返事した事から「サイダー」となったのだそうです～って言うのは**真っ赤なウソ**で、語源は「りんごの発泡酒」を指すフランス語では「シードル」、英語では「ソーダ」などが語源なのだそうです。要するに元々は炭酸入りのお酒の名前なのですね。テレビで「シードル」なる飲み物を宣伝していたのが記憶にある方もおられるでしょう。しかし日本では「サイダー」は甘みと酸味のある炭酸飲料で、もちろんアルコールは入っていませんが、昔から親しまれている炭酸飲料なのです。個人的にはビールと混ぜてもオイシイっ(°^°)b

日本のサイダー発祥は兵庫県の「有馬温泉」とされ、「有馬鉱脈」で湧き出る炭酸水に甘味、酸味をつけてビン詰めし、売り出したのが始まりとされます。その副産物である「炭酸せんべい」を一度は食べた事があると思います。「炭酸の鉱脈水」から作られたので「炭酸せんべい」なんですね～
今では有馬で元祖サイダーの復刻版が人気があるとか・・・

さて、昔から小さな飲料メーカーが沢山ある中で「三矢サイダー」は今では一番馴染みあるサイダーとして引き継がれています。たまたま過日、テレビの特集でやっていたのですが125年の歴史が有り、関連の商品を含め年間3200万ケースも販売されてるのだそうです(350ml缶換算)。

三矢サイダーの発祥については兵庫県川西市に「^{ひらの}平野鉱脈」があり、その鉱脈の水を用いて作ったのが始まりとされます。この地は少々大阪と縁があって、平安時代に攝津の大將が大阪住吉大社の御神託に従い「三つ矢羽根の矢」を放ったところ、その矢が落ちた場所付近がその神戸の「平野鉱脈」の水源であったとされ、その言い伝えから「三矢サイダー」と命名したのだそうです。矢がそんなに遠くまで飛ぶはずはありませんけどね～(°^°);

昭和30年代に私が記憶している三矢サイダーは、薄く緑がかった水色の透明のビンに三本の矢をあしらった肌色を基調とした紙ラベルが貼ってあり王冠にも同じようなデザインがあったように記憶しています。最初に登場した頃は「シャンペンサイダー」と言う商品名だったそうです。

幼い頃、私のおばあさんは「これは薬やさかいに、あんまし(=沢山)飲んだら体に毒だっせ」と言ってなかなか飲ませてもらえなかった記憶があります。思い起こせば「暑い季節にようさん冷たいものを飲んだら体が冷えて良くない」との昔流の配慮だったのかも知れませんが当時としては高価なものだったのでしょう。

第91話 平成20年6月10日

●免疫力よもやま話

梅雨の季節、食品を始め色々なものが傷んだりサビが生じたりと気を遣わねばならない時期となりました。食品は冷蔵技術が向上したものの、まだまだ合成保存料などに依存し知らず知らずの内に私たちが口にせざるを得ない状況と言えます。

さて「環境ホルモン」と言う言葉を聞いた事があるでしょうか？それは、生物の生長や生殖の本来の状態を妨げる化学物質を指します。それらは生物の繁栄を^{おびや}脅かし、先々にはその種の存続すら危ぶまれるのです。それらは、ある程度特定されているものの未知のものもまだまだ存在するとされます。

方や食品添加物、農薬なども使用量を決められた上で認可されているものの、本当に「無害」なのかは^{はなは}甚だ疑問です。残存化学物質が基準以下というその「基準」の根拠も実験から来ているのですが、その実験期間の設定方法も根拠が曖昧なのでは？

ところで、小児アレルギーが増加傾向にあると言う事を聞かれた事があるでしょうか？身近の小さい子供さんがアレルギーだと言う事を見聞きされた事が増えたな、と漠然と感じる方もおられるでしょう。

考えられる事として・・・

- ・ 環境ホルモン（PCB、DDT、ダイオキシン等々の化学物質）の拡散
- ・ 親が知らず知らずの内に食べていた食品添加物が体内に蓄積し子供にまで影響
- ・ 子供や赤ん坊が口にする食品の影響
- ・ 身につける服などの（化学）繊維や紙おむつなどの成分

などが考えられます。

以前に「食品添加物・残留農薬などの影響が日常に悪影響をもたらしている可能性」について話をしましたがそれらが「子供のアレルギー」と言う形で現れている可能性も否定できません。

また、近年春先になると「花粉症」が話題になりますが、これは春先に木々の花粉が多く発生して人を始めとし影響のある動物も多いのです。なぜ「近年」なのか？それは、地球環境の悪化に伴い木々が自分の子孫を少しでも多く残そうとする自然のシクミで花粉をより多く飛ばそうとするのです。しかし一方では人の免疫力自体の低下が原因ではないか？と考えます。免疫力の改善により、花粉症が緩和された事例を見事があります。ガンや内臓疾患も生活習慣病といわれておりますが、その増加傾向を見ると生活習慣だけでは説明しにくい現状もあります。免疫力の増加により改善されるさまざまな病状がある事から、その増強に努める事も大切でしょう。

さてそれにはどうすればよいのでしょうか？当然、生活習慣が良くない傾向であれば改善する事。また、前向きな考えや朗らかに、健やかな気持ちを持つ事。「笑う角には福来る」なんて事も言いますが、これとて朗らかな気持ちが免疫を向上させると言います。老人性痴呆症の症状改善にも「笑い」を採り入れ、成果が上がっています。これは精神的な部分で「病は気から」を改善してくれます。要するに、良い精神状態が健康の助けになると言うことでしょうか。要するに「前向きな気持ち」なのです。いじけた気持ち、閉じこもった心、後ろ向きな姿勢などは健康面からも良くないのは明白です。

また適度な運動による余分なカロリーの消費、血液の循環の改善、血液の清浄化をする食品（無農薬の野菜、お茶などの植物性食品、ヨーグルト類の乳酸菌）の摂取なども免疫力改善に良いとされます。

もう20年ほど続いています私風浴で体を洗う際、亀の子タワシで洗います。これは皮膚を鍛える事により全身が活性化され、風邪をひきにくくしてくれます。また皮膚には鍼灸で言う「ツボ」が多く、それも刺激しているのでしょうか。最初は痛かったのが軽く擦りましたが今や普通にゴシゴシと洗っています。

現在、脱食品添加物を目指し、さまざまな取り組みが行われています。例えばコンビニ弁当では、徹底した温度・時間管理、衛生管理で保存料を使わずに製造・販売をする事が昨年より実施され始めました。しかしながら、まだまだ食材の原産地もさまざまに残留農薬や合成着色料も多く、この試みは始まったばかりです。今後、どのような展開になるのでしょうか？食の安全・供給不安が叫ばれていますが「良質な食の時代が来てくれれば」と思います。

また、期限切れなど無いようにする為の「マトモなシクミ」をも作って欲しいものです。MOTTAINAI!!

おまけ 原油高による社会的損失

数年来の原油高が最近になってさらに異常な値段が付いています。それによる日本での損失は年間試算で約3兆円。その内ガソリンに関するものは25%以上の7000億円超えとなり、家計や企業の運送、営業コストに押し掛かります。残りの75%は、生産活動、発電のコストを押し上げる事となり、企業間の物価を押し上げ、私たちの日常にも跳ね返ります。今後更なる原油高でその試算も膨れ上がるでしょう。一方では、省エネなどの効率良い消費方法、代替エネルギーの普及を目指す事も有りその増加は緩和されるとされます。

第92話 平成20年6月17日

●京都祇園さんは舶来の祭り？平野郷のまつりとも親戚なん？

来月に入ると祇園祭りが賑やかに執り行われますね。大きな山鉾や山車が列をなし、豪華絢爛な巡行を見せてくれます。日本の三大祭の一つにも数えられる大きな祭り行事ですね。

この祭りは7月17日の山鉾巡行でヤマ場を迎えますが、この祭りも杭全神社のまつり同様7月1日から始まる「吉符入り」を経て、7月31日の「夏越祭」まで続くのです。その前の6月には先頭の長刀鉾で巡行の先陣を切るお稚児さん選びも恒例のニュースです。

さて、この「祇園祭り」はユダヤ教の「シオン祭り」が起源とされる説を聞かれた事があるでしょうか？以前、知り合いに教えてもらったのですがオドロキです。

「シオン祭り」とはユダヤの「疫病平定」の祭りです。発音が類似している事を始め、祭りを主催する京都八坂神社の山門は朱赤で彩られ、この色がユダヤ教の古い神殿と同じような色なのだそう。この色は種族の繁栄を表す色なのだそうで、日本各地の神社もこのような彩りが主流ですね。また「伝染病・疫病から守ってもらうよう祈る」という趣旨もシオン祭りと同じなのです。他にも沢山の類似点が指摘されています。

ユダヤ教では、大洪水の際、ノアの箱舟に乗って難から免れたとされますが、山鉾巡行の日の7月17日とその洪水が収まった日とされ、これまた一致点が有ると言うのです。

それに神社の「鳥居」はキリスト教(=ユダヤ教が起源)由来と言う説は以前「お札から消えた聖徳太子」でも書きましたが、他に「トリイ」は元来「門」を意味する外来語と言う説まであります。

今まで何度か採り上げて来ましたが、さまざまな影響がアジア(ユーラシア)大陸から日本に伝わってきました。思うに、仏教を始めとする宗教は「教祖」がおられますが、日本の神社に見られる神道の「神さん」は、そのような事はありませんね。その代わり神が宿っているとされる「ご神体」と言う我々には正体が明かされていないものを崇めているのです。このように見て行きますとさまざまな状況から「シオンの神(=ユダヤの神)」と「ご神体(の神さん)」は元々起源が同じと言う気がしてきます。

ちなみに平野郷にある杭全神社と八坂神社は共に祇園社とされ、^{まつ}祀っている人物が同じ(牛頭天王・

^{すきのおのみこと}素戔鳴尊)で神社の紋も「巴」と「木瓜(きゅうりの断面の模式紋)」の対、で同じなのです。

杭全神社の祭りの趣旨も「悪霊退散、疫病平定」とほぼ同じなので、いわば親戚同士の神社なのですね。と言う事は、平野郷のまつりも起源はユダヤ教・・・ですか？

まっ、信じる信じないは別として、これから大阪は夏祭りの季節に入り8月まであちこちで賑やかになります。

おまけ熱中症の話(大阪労働基準監督署の「基準月間」誌より要約)

これからの時期、暑い場所での長時間滞在で起こりやすく、必ずしも陽にあたる場所とは限らないです。一口に熱中症と言ってもさまざまな症状があるようです。屋内でも起こる可能性もあり体調がおかしいと感じたら早めの対処が必要です。以下は「基準月間」から要約しました。

① 熱射病—体温調節機能の失調で体温・脳温の上昇で中枢神経に障害がでる。悪心、めまい、頭痛、時には嘔吐や下痢を伴う。

救急処置：冷水をかけ、扇風機などで体を冷やす。氷でマッサージをするなどにかく体温を下げる。

② 熱けいれんー大量の発汗で塩分が不足し、その補給が足りない時に起こる。筋肉に痛みを伴うけいれんが起こり。それは、家に帰ってから、睡眠中にも起こる。体温の上昇や血圧の低下は無い。

救急処置：0. 1%の食塩水を飲み、涼しいところで休養。

③ 熱虚脱ー暑い場所では汗をかいて体温の上昇を防ごうとし、体表の血液量が増え、内臓などの血流量が減ります。それを補うために心拍数が増加し限界を超えた心拍数となった場合起こる。全身倦怠、脱力感、めまい、意識混濁に陥る。心拍数は多いが脈が弱く血圧は低下。体温の上昇はほとんど無い。

救急処置：涼しいところで安静にし、水分を飲ませる

④ 熱~~疲~~はい（熱疲労）ー大量の発汗で血液が濃くなり、心臓の負担が増える共に、全身に血液が充分回らなくなる。初期症状は、喉の渇き、少尿から始まり、めまい、手足の感覚異常、歩行困難となり時には失神する。大量の発汗で体表は冷たく湿り、血圧の異常は無いのが普通。

救急処置：涼しいところで安静にに、水分を飲ませる。

以上が「基準月間」の記事の要約です。

仕事のみならず日常生活でも起こる可能性があります。いずれも処置は「(スポーツドリンクなどの)水分」「涼しくする(冷やす)」が共通しますね。しかしながら、以前から言ってますように「風邪薬」や「解熱剤」を飲んでいると水を飲んでも体は吸収してくれないのでくれぐれも注意です。

第93話 平成20年6月24日

●漁業休業から見える日本の現状と将来 ～私見～

過日に原油高に伴う重油の高騰^{こうとう}で、一部マグロ漁を自粛^{じしゆく}、また二日間イカ釣り漁の一斉自粛がありした。これは、市場価格(相場)が抑えられ、このままではやって行けないと言う切実な現状を必死の思いで訴えているのです。方や食品を含む製造業も、納入先に値段を抑えられバタバタと倒産しています。

身近な豆腐を例にとりますと「この値段で出来ないのなら、よそから買う」と言われ取引を切られて倒産。指値^{さしね}(要望価格)に無理に合わせた会社も赤字経営で倒産の危機となります。販売業者は「どこかが安く納入してくれる」とタカをくくっている節^{ふし}があります。強大な販売力を背景にしたパワハラの側面が、裏づけの無い安売りを強要し、ますます日本経済の足腰を弱めて行く可能性があります。で結局国内業者が無くなれば海外から引っ張ってくるのでしょうか？

日本の巨大な小売会社は、量を拡大する事で経営が成り立って来たのですがここきてまだ「販売量の維持」に汲々^{きゅうきゅう}としています。彼らの錦の御旗は「消費者の為」。しかしながら、納入業者も消費者なのです。彼らが赤字納入を続けたり、納入業者の社員が職を失う事により購買力が落ちてゆくのは明白ですし、今までもそうでした。原材料が上がっても今までのシクミを変えずに無理な事をしていると、いずれ大変な事になる気がしてなりません。よって関連業者は実力行使の道を選んだのでしょうか。

適正な価格で、適正な消費動向ができる生活習慣を考えねばなりませんし、経済のシクミもそれに合わせて変化しなければならぬと思います。今、日本の企業は内憂外患の兵糧攻めで苦しんでいます。

また、農業に関しましても、化学肥料が高騰し、以前の倍の値段になっているのだそうです。これは、有機リン系の肥料原料を中国に依存し、中国がその輸出に規制をかけのが原因の一つとか。これではせっかく「日本産の食」に注目が集まっている中、肥料価格のみならず肥料そのものが手に入らないので「国産の食」が充分な量を確保出来ない可能性^{ほら}を孕んでいるのです。結局、魚も野菜も果物も日本産への要望とは裏腹に、

できるだけ安い物を求めて輸入に頼り続けねばならない現状が加速される恐れがあります。過日のニュース特集では、あらゆる値上に対抗し会社の帰途で魚釣りをし、食費を少しでも浮かそうとする方がおられました。ここまで庶民を追い詰める為政とは何なのでしょう？

一方で、イオングループやセブンアイグループが農業法人を設立し「自社ブランドの米・農産物」などを栽培・販売する計画も進めています。これまでの個人の田んぼや畑のあぜ道を取っ払い、大規模に生産しコストを下げられる可能性を秘めています。これは「食の自給率の向上に寄与する」と言う企業の広告なのか否か？「食材の調達^{ひとじ}の独り占め」なのか？これとて大資本の流通業者の介入により、将来「農協」「卸業者」「問屋」など既存の流通^{おろしぎょう}が大きく変わりそうです。現に食品卸業は、大手以外の小売・販売先が細りつつあり、活路^{かつろ}(先々生きて行く方法)の一つとして自前でレストランを開業したりしています。自転車業界も過去において卸問屋が衰退・消滅・変業しましたが、食の物流も大きく変わるのでしょうか。

しかし、悲しいかな近海に漁業資源があり、国内に農地があるのに、操業や栽培の為の資源が乏しく思うに任せない現状は辛いものです。

一方、リンについては、養豚場からでる廃棄物からリンを採取する技術が開発されており、実用化が待たれるところです。このように、今まで捨てられていたものが見直されたり、代替のモノや方法が今後、開発されて行くのが待たれます。あらゆる物の高騰は世の中が良い方向に変わる起爆剤となる可能性を秘めていますし、そう言う方向に向ける知恵や努力も必要です。もちろんその途上の混乱は避けて通れないでしょうが。

第94話 平成20年7月1日

● 冬瓜への挑戦 ～神奈川県三浦の冬瓜～

夏によく出回る「冬瓜」という瓜をご存知でしょうか？大きなすんぐりしたラグビーボールのような実の形で一般に長さが約50cm 胴回りの直径が約25cm程の大きさです。特徴として皮が薄く、中がみずみずしい果肉で満たされており、淡白で味付けがし易く歯ごたえもしっかりした野菜です。でも、なぜ夏の野菜なのに「冬」の「瓜」なのでしょう？この野菜は6月～10月が収穫時期なのですが、皮はきめ細かく水分を逃がしにくい構造になっている事から長期保存が可能で冬まで保存しても栄養豊富な野菜を食べられると言うことで「冬瓜」と言う名がついたそうです。

私も好きな野菜の一つでいろんな料理ができるそうです。一度試してみてもは？

ところで、東京オリンピック(1964年)が開催される以前の野菜は、いわゆる「肥」と呼ばれる人糞が主な肥料であったのを時の政府はそんな時代遅れの野菜栽培が日本にあるのは近代国家の恥であるという理由から人工肥料への切り替えを促進しましたのだそうです。韓国でオリンピックを開催する際、いわゆる「赤犬」という犬を食べる習慣が近代国家にふさわしくないと一時規制したのと似ています。(戦後まで日本でも「赤犬」を食べる事があったそうです。特に新世界の串カツはネ・・・)

その人工肥料で栽培された野菜は「清浄野菜」と明記され、きれいな状態で育てられ安心して食べられますよと訴えた表示が箱に印刷されていたそうです。

しかしながら人工肥料を使ってゆくにつれ数年でその畑の土はさらさらになり土地が瘦^やせて栽培に適さない状態になったと言うことです。

神奈川県のある農家では、価格競争の激しい一般野菜から付加価値をとれる野菜として「冬瓜」を選びました。その頃あまり耳にしなかった野菜ですがその将来性に確信を持ったそうです。冬瓜の収穫時期は6月～10月なのですが、土壌の状態維持と収穫を上げる為に三毛作(年間を通じて三種類の収穫品種を栽培する)

をする事としました。それは、冬に大根（堆肥を少なめに）、春にキャベツを育て、夏秋に向けて堆肥を多めに使って冬瓜を栽培すると言うように土壌が痩せないよう工夫をされているとの事です。

近年では、作物を作るだけでなく「冬瓜」を知ってもらおうとスーパーマーケットの店頭で農家自ら宣伝し消費者の方々から色々と意見を頂戴し、その意見を反映して農作をされているのだとか。初めて店頭で宣伝をした時は「農業一本で来た百姓が面識のない人との対話は苦痛だった」と、その農家の方は言うておられましたが消費者の意見を聞くにつけ作物が消費者の要望に合うものとなり喜ばれた時には本当に嬉しいと言われていました。やはりモノ作り同様、勇気を持っていかに消費者に近く接するかと言う姿勢が大切である事を教えられます。

冬瓜は通常の品種では5 Kg 程の大きさで現状の家族構成には大きすぎるので順次小さいものを品種改良で市場に出し、今では味と風味は変えずに5段階の大きさ（小ささ）を栽培されているそうです。小さいものが出来る事により冬瓜そのものを器にするなど、今までと違った調理方法も出来るようになったそうです。消費者の声を直に聞くに付け、その人の夢は「お客さんの声を聞きながら日本一の産地にする」事となりました。製造業に携わる我々も頭が下がります。

第95話 平成20年7月8日

●うなぎよもやま話・・・など

もうすぐ「土用丑の日」ですね。「土用丑の日」とは、江戸時代にあるうなぎ屋が売り上げが芳しくない（良くない）ので平賀源内に相談したところ、夏の暑い時期にうなぎを食べると夏バテになりにくいと言うので日を定めて大々的に宣伝してはどうかと言われ、それがそのまま定着されたとされます。

※平賀源内「蘭学者」であると共に、多彩な才能を発揮した。「解体新書」の翻訳、「エレキテル」の紹介でも有名。

ちなみに、うなぎの名の由来は胸の部分が黄色い事から「胸黄」→「むねき」→「うなぎ」となったのだそうです。

さて、うなぎのさばき方は、関西では腹開き、関東では背開きなのは有名な話ですが武士が切腹を連想させるとの事で関東（江戸）では背開きだったと言われています。関東は「白蒸し」関西は「(炭) 焼き」と大きく調理法が違うのですがそうなのは何かはわかりません。ただ、うなぎに熱を通す事で不要な油とコラーゲンを除いて歯ざわりを良くする事は共通のようです。

大阪では「うな重」「うな井」などの事を「まむし」と言いますが、へびの「まむし」ではなく焼いたうなぎをご飯の層の真ん中にも入れ、うなぎの上にご飯をまぶしてある事から「まぶし」→「まむし」と訛ったのだと聞いた事があります。食べていたらご飯の中からまたうなぎが出てきてちょっと得した気分させると言った大阪人気質をくすぐる演出もあったのでしょうか（^o^?）

さて昨年来、中国産のうなぎの品質でいろいろと物議を醸したのが記憶にある事とおもいます。世界には18種のうなぎがある中で日本にはその中で2種類生息しており、その中の1つが昔ながらの「日本うなぎ」として古くから食べてきたものなのです。中国、台湾の養殖うなぎは欧州原産が主で、一匹まるまるさばいて売っているのを見ると笹の葉のように胴の部分が広がっています。原種が日本産のうなぎは胴の部分が平行なので一匹の開きで売っているものは容易に見分けがつかず。さて、日本でうなぎと言えば「浜松のうなぎ」が有名なのですが、うなぎの生態はあまり解明されていません。成魚が5000Km離れたフィリピン沖まで行って産卵し、稚魚が浜松付近に戻ってくる往復1万Kmの回遊をしているのは有名な話です。うなぎの稚魚が欧州から入りにくくなっている昨今、養殖で卵から日本ウナギを育てようとする試みがあります。それに挑戦する事は大変な事で、まずうなぎに雌がない!?!?!つまり、雌雄同体という事でホ

ルモン操作で雌に転換させ卵を産んでもらう事を試みたのだそうです。卵は産んでくれるが孵化しない、孵化しても稚魚が死んでしまう、などの試行錯誤の結果、現在稚魚 1 万匹に対し食べられる程大きく育つのは 1 匹だとか。かくしてそのうなぎでうな重を作ると 1 人前数百万円なのだそうです～(∧o∧；
いずれ養殖方法が確立し、卵から育てられた手ごろな価格で安全な「日本産の日本うなぎ」が食卓に登る日が来るのでしょうか。

ちなみに、つい最近ウナギの産地偽装が取り沙汰されましたが、この魚介類卸業界は昔っから売り逃げ計画倒産を始め、さまざまな闇が存在する業界です（残念ながら詳しくは書けません）。そのような不正・不法は、今まで通りやりたい放題と言うのは難しくなるでしょうが一般消費者の想像を超えたエゲツナイ「魚ころがし・食材ころがし」のシクミの中で彼らは蠢いているのです。また、米国産牛肉が BSE の危険部位と共に輸入された事がありました。これらは人知れずあるチェーンストアで安く売りさばかれた事は業界で「公然の秘密」とされます。と言うわけで「消費者不在」の食品関連会社はまだまだ出て来るのでしょうかね～ (´ー`；

第 9 6 話 平成 20 年 7 月 15 日

●昭和 33 年の出来事 ～人生 50 年から～

織田信長が明智光秀の謀反に遭い、京都は本能寺にて覚悟を決めて自ら放ったで炎に包まれた中、最後の舞を踊り「人生 50 年」と謡ったと言われています。（本能寺の変・実年齢は満 48 歳とされる）

私も今年の平野郷の夏祭りを終えるとすぐに 50 歳となり「人生 50 年」を超えることとなります。私の生まれた昭和 33 年（1958 年）は戦後の復興期で日本経済が上り調子にあった時期でした。30 年ほど前に「ビッグコミックオリジナル」と言う漫画雑誌に描かれ始めた連載「三丁目の夕日」が「オールウェイズ」と題名を加えて近年映画化された時代背景もこの頃です。さて、昭和 33 年には戦後の復興めざましい日本を象徴するさまざまな明るく、新しい動きがあったようです。

プロ野球では長嶋茂雄氏のデビューで一躍人気者となりました。家庭ゲームのエポック社が「野球盤ゲーム」を発売し、宣伝には長嶋氏を起用。大ヒットゲームとなりました。これは時を越えて改良を重ねられ、今年、装いも新たに発売されるのだそうです。

以前に「ラーメン奇談」で書きました「チキンラーメン」もこの八月が 50 歳の誕生月です。ちなみに名物、札幌ラーメンの「みそ味」が正式メニューとして世にでました。今で言う「みそラーメン」ですね。日本初の缶ビールも朝日麦酒（現アサヒビール）から発売されたそうです。

本田技研工業からは、今も丈夫さで根強い人気のロングセラー単車「スーパーカブ」が発売され、富士重工業からは「てんとう虫」の愛称のある「スバル 360」と言う軽自動車が発売され世にでました。後の自動車立国・マイカーブームを予感させる時期でもありました。ちなみに知り合いの方は「スバル 360」に乗っていた頃「女性によくもてたでエ～」と言われてましたっけか。

先進国に追いつこうと、国民の福利の為「健康保険法」が施行され、また前時代的な「赤線・青線」などと言った売春宿を排除する「売春防止法」も発令されました。

また経済の成長を象徴するものとして「1 万円札」も登場、放送局もたくさん設立され放送網の充実を目指した「東京タワー」も竣工しました。確か「TBS」も 50 周年と宣伝していたと思います。

私の父は昔、列車で東京出張する際、夜行しかなかったと言っておりました。夜 9 時か 10 時に乗って、朝 6 時頃に東京駅に到着と言う運行だったそうです。この年、東海道線に「こだま号」が走り出し東京出張も随分楽になったと言ってました。それでも大阪ー東京間は 7 時間ほど掛かったと聞いたものです。

大阪では名古屋を結ぶ近鉄特急の「ビスターカー」が登場、自動車時代に備えて大阪と奈良を結ぶ「阪奈道路」も開通しました。

この年以降、高度成長への布石となるような、さまざまな大きな事が始まっていったのです。

私の幼い頃、卵やバナナは高級品で、なかなか口にする事が出来ませんでした。白黒テレビ、黒煙吐く汽車の走っていた関西線、硬く分厚い鉄道の切符、長屋、おばあさんのやっていた駄菓子屋、地道、柵のない池やドブ川、牛舎、畑、田んぼ、その中を走っていたチンチン電車、そこらじゅうにいた虫や蛙たちなど、思い出しても懐かしい限りです。それらにはその時代なりの臭いもあったと記憶しています。物質的には貧しかったのですが、精神的にはのんびり出来たよい時代だったと思います。

「余談」では、いままでに見聞きした事、体験した事、疑問に思った事、これからを予測される事などを書いてきました。50歳を超え、これ以降は頂いた人生と肝に命じ「何を伝えられるのか？何が出来るのか？何を恩返しできるのか？」を更に考えてゆく人生となるでしょう。

第97話 平成20年7月22日

●使いきり予算とばらまき行政 その1 ～行政墮落の根源～ (私見)

お役所関連の「裏金」については昔から「公然の秘密」として存在し、最近になって大阪市ではようやく表に出てきました。でも、まだまだ氷山の一角でしょう。全国的にも蔓延していると考えてよいでしょう。

さてこの、裏金の存在の諸悪は「使いきり予算」にあります。そもそも「使いきり予算」とは何か？役所の各部署部門が予算折衝の折「ウチは、これだけの予算が必要です」と「名目」と共に所轄の財務部門に申請・認可されずなのですが、次年度も少なくとも同じ予算額を獲得する為には、もらった予算を全部使い切る必要があるのです。一般常識で言えば、余った予算は財務部門に返還するのが筋なのです。しかし、お役所は予算と言う「既得権」にしがみつき予算の適正な執行よりも如何に帳尻を合わすか？に労力を注いでいるようです。そのため余った予算は色々な「手口」で使ったように偽装し「裏金」として貯めてゆくのみならず「私的流用」までするのです。私は「裏金」の存在もさることながら裏金を作るまでの過程がもっと問題だと思います。通常の企業であれば「如何に安く良質のものを購入するか？」に汲々とするのですが余った予算を消化するには、価格へのこだわりは無く更に悪質な場合には市場価格よりもわざと高い値段で購入し、その値差を業者に管理させ「裏金」として保管させるなどの背信行為もあるようなのです。高いと承知の上で予算消化の為に金を使い、それでも余ったお金は「裏金」となる。この往復オマケのような浪費の過程を報道が採り上げないのは不思議でなりません。

このような予算執行は、結果的に「ばらまき予算」となり「ムダ使い」の温床となるのです。

過日、大阪府知事の橋下知事が補助金の削減に理解を求めべく大阪府下の自治体を集めたところ、非難の集中砲火を浴びていたのは記憶に新しいところです。補助金と言う「既得権」を当てにし、自治体として予算軽減の努力を放棄した墮落者達の「おねだり根性」丸出しで見苦しかったと言う印象です。いままで、都合の悪い事は後回しにしたツケが今度の知事の断行で表に出ただけなのです。「おねだり」は、自ら予算を切り開く努力が必要という事を置き去りにしたのです。

過日、府の幹部職員が知事に物申した際「私のやり方に付いて行けないなら、よそで働いてくれ」と言ったことは全くの同感です。私も同じ事を昔、会社で言っていたのを思い出します。

実際「財政再建団体」に転落すれば話し合いなどなく、国から有無を言わず指図されます。彼らの中には甘い考えの方が多と思われる。一般企業は倒産すれば、従業員はもっと悲惨なのです。

●使いきり予算とばらまき行政 その2 ～タカリ状況からの脱却が出来るか～（私見）

長野県の下条村という小さな村があるのですが、その伊藤村長は民間出身で斬新な取り組みをされています。その職員（役人）数は同じ規模の村の半分。予算も小額なのですが、田舎にも関わらず着実に人口を増やしているのです。新婚世帯への無償住宅提供、更には彼らには村独自の宅地造成での定住を促す。それらには「村と住民お互いに貢献と助け合いをする」という意思確認の審査があるのです。そこでは医療費を無料としているのですが、簡単な道路整備などは住民参加で手作り。権利と義務を明確にした典型的な政・住民一体型の自治運営と感じます。伊藤村長は役場職員の意識改革のために先ずホームセンターで研修。民間の厳しさを体感させ、それまでの甘い考え方を正したのです。住民も最初から協力的だった訳ではありません。村長の動向を固唾を呑んで見ていたのが、ある日、住人の一部が協力を始めると雪崩を打ったように協力的になったのだそうです。この例が本当に良いのかはこの先どうなるかを見極める必要がありますが、長の考えを理解し、考え方を変え、素直な気持ちで取り組むようになれば自ずと組織は変わります。少し違うかもしれませんが意識改革の好例はプロ野球で言えば現楽天の野村監督の今までの足跡をみれば一目瞭然です。

お金のばらまき行政で農民の機嫌を取り、おねだり農政で多数の農民の無気力化を招き、政治屋、官僚などへの税金還流工事、天下り先の確保の為のムダな公共工事、小手先の政策、役人の本分の置き去り、更には国民力の低下を招きました。今後の行政、お金のあり方を一般企業のように究極に突き詰める事が先決です。私は現在の目茶苦茶な税金の浪費内容を正すと、行政予算は将来現在の半分～2/3 でやっていけると確信しています。増税論議はそれからです。医療保険にしろ、人口統計は一番正確な統計で数十年も前から高齢者が増加するのが分かっているのですから、予算の飽食をせず老人医療関連費用、年金なども将来予算として留保しておく事が出来たはずです。また、景気の良いときには放っておいても景気は良いので下支えの公共工事などは不要なのです。この下支え名目の工事も、彼らの打ち出の小槌だったのです。嗚呼ムダ使い。こんな時の税収は留保し本当に景気の悪い時に使うべきなのです。一般企業であれば当たり前です。現在、過去の無策と放蕩、役人・政治屋の宴のツケを我々に押し付けようとしつつ、既得権はしっかり守ろうとしているようにしか見えません。過去の失政、ムダ、私腹を肥やした輩は「全財産を投げ打ってでも責任を取れ」と思っているのは私だけでしょうか？過日、福田首相が「日本の消費税（間接税）は、世界の水準より低い」と言いましたが、給与などから引かれる税（直接税）やその他の税、社会保障費などについての諸外国の比較は言及無しでした。片手落ちのご都合・詭弁発言と感じます。国民の納税義務は当然として、私たちには使い道を知り、監視する権利があるはずです。現在は非常に不公平で片手落ち、一般企業は会計を税務署に公開する義務が有り、社会保険も強制精査が入る事があります。片や役人達は税の使い方を細かく開示しなくてよいと言う「勘違い既得権」のようなものを必死に守ろうとしています。このような状態が続いているのを見て、先進諸外国からはどれほどバカにされている事か。

自分達は一番エエライ・カシコイと思ひ込み、井の中の蛙状態なのを自覚していない悲しい現状なので。そのような情けない状況・状態に気付いた役人達は既に役所にはおりまへん。飛び出して自分の才能で活きたりはります。但し、省庁出身の一部の賊議員・・・いや失礼、族議員は別です。彼らは省庁の命運を背負われています。

ちなみにアメリカでは大統領が替わると、それを支える役人達も入れ替えです。彼らは何処でも生きていける才能を持った方々で、日本の官僚のようにその地位にしがみつきます。政治家が替わっても官僚がそ

のままと言う「人の^{よど}み」もまた「政治の停滞」や「闇の^{やみ}シクミ」「タカリ・タカラせ体質」作ってしまい行政を悪化させる元凶の一つと考えられます。

おまけ ある公務員のお気楽日常

過日、厚生労働省の役人が一日あたり12万件のインターネット不正アクセス（仕事に関係ない閲覧・書き込み）をやっていたと言うニュースがありました。同省の役人は約5500人とされているので単純平均で一人約22件、不要・不正アクセスをしている事となります。アクセス合計時間を公表したらもっと凄い「勤務実態」が出てくるのでしょうかね。

さて、私の身内が昨年末～年初にかけて国土交通省の出先機関である「近畿運輸局」でアルバイトをしました。週3日の仕事で朝10時から午後5時40分くらいの勤務時間でしょうか？その時間を満たす仕事は無く、言ってみれば「20分で出来る仕事を2日掛けてする」ような例えがピッタリだと言う状態だったのです。要するに「予算消化」に雇われたのでしょうかね。同室の公務員達は仕事らしい仕事をしている気配は無く、ある人は自分の机の回りに書類や本を積み上げ「城」を作って回りから何をしているのか分からない状態。恐らくパソコンで自分の事か何かやっていたのだろう、と言う事です。その部署の一番エライさんは上級公務員で日がな一日新聞を眺め、電話があると「今晚、どこそこに飯に行こう」などの打合せ。毎日「定時」にお帰りになられてたとか。国土交通省の査察が有る前になると、珍しく部下との打ち合わせ。その内容は査察とは程遠い「彼らには、どこで接待しよう」だったのです。いわゆる「官・官接待」の打合せを部下としていたのです。いったいこの部署のどこに「専門色」があるのか？何の仕事をしているのか？正に税金のムダ使いである。結局この職場の変な環境と退屈さに耐え切れず契約期間を待たずして辞めてしまいました。

私は、不要な部署や役人の排除と外郭団体への補助削減などで国家予算は現在の半分で可能だし、これからの高齢化社会への予算は充分に出せると言い続けています。それで余った公務員や外郭団体の職員は、性根を鍛えなおした上で少子化で人手難が見込まれる民間に放出すれば良いのです。公務員も雇用保険をしっかり徴収し「雇用保険が無いので身分保障をしっかりしなければ成らない」と言う詭弁を言わせないようにしないと。法の下に平等な国家でしように・・・

おまけ 日銀の景気予測と日本のGDPの現状と今後 ～私見含む～

日本の景気が「さらに減速」と下方修正された。物価は1.8%上昇。企業間物価は5%以上上昇している中で、最終消費者には1.8%程度と極めて低い。外国では消費者物価が5%台と言う上昇の中で、日本の企業はコスト上昇分を被っているのが分かる。

この状況下、シンガポールの一人当たりのGDP（国内総生産）は3.5万ドルとなり、日本の3.45万ドルを抜いてアジアで一番豊かな国となった。この差は、積極的な外資、外国人の誘致策で経済の活性化を図った結果とされ、市場開放が後手に回った日本との違いが鮮明になったとされる。シンガポールでは税制の縛りも日本と比べ物にならない程簡素である。その税制の下、先進技術、金融ビジネスにおいても積極誘致をしている。今回WTO（世界貿易機構）の会議では、日本の市場開放を強く迫られており官民による真の経済構造改革が待った無しとなる。

ちなみその他のアジアの一人当たりのGDPは日本に続き、香港の2.96万ドル、韓国の1.97万ドル、台湾1.66万ドル、マレーシアの0.69万ドル、中国の0.24万ドル、インドの0.097万ドルとなっている。

日本の国策次第ではGDPは更に日本は後退しかねない。無策・愚策の場合、今以上に日本から企業や人、

資金は逃げてゆくだろう。

おまけ 「日本脳炎」に注意を

この猛暑で、平均気温が上昇しているのですが「高温」は「日本脳炎流行の条件の一つ」とされ、さらに流行の予兆である養豚場^{ようとんじょう}で感染が拡大しているとの事。また、平成17年より日本脳炎の予防接種の義務化が無くなり、免疫の無い子供達が増えているのも、その流行予測の根拠となっています。虫よけスプレー、昔ながらの蚊帳^{かや}の使用、また、蚊の駆除並びに、蚊の発生源である水の溜まりなどを出来るだけ無くすなどの予防策も心がけてはどうでしょうか？

ちなみに日本脳炎は「小型赤家蚊(コガタアカイエカ)」と言う小さな赤っぽい蚊が病気を広げるとされますが、温暖化と言われる中、他の蚊も感染拡大の担い手となる可能性も大きいようです。

これも以前から言っています「封印された病気」が復活し始めた一例でしょう。他の感染症にも注意です。

また、冷房、冷たいものの飲み過ぎなどによる風邪、胃腸疾患と言った体調崩れにも注意を！！

第99話 平成20年8月5日

●お年玉よもやま話！？

この暑い時期、まだまだ正月には5ヶ月ほどと言うのに、なんじゃこの話題は！？と思われるでしょう。まあ読んでやって下さい。

私たちは「お年玉」を貰う事とは縁がなくなり、ひたすらあげる立場の方ばかりと思います。お正月にはおせち料理と長い休みで太ってしまう反面、サイフは痩せてしまう時期でもあります。

おとしだま(御年玉、年玉)は、正月に新年を祝うために贈られる物のことで、新年にあたり子供達にはおめでたいと言うので特別のお小遣いあげると言う意味合いですね。地域によってはお金でなくお菓子などを与えるところもあるようです。お金ではないので子供にはちょっと可愛そうな気がしますが・・・

お年玉は目上が目下に贈るものと言う事で年の賜^{たま}わり物であるから「年の賜物」→「年賜」→「年玉」という呼ばれるようになったとか。また、元来「餅玉」を与えていた事から転じて「年玉」の名前がついたと言う説もあるそうです。

と言うわけで古くは、部下などの目下に物品を贈り、新たな一年に備え新しい力を付けさせる意味もあったのだそうです。

日本同様、正月(旧正月)に子供にお金などをあげる習慣は中国、韓国でもあるのだそうです。ちなみに中国では「压岁錢」と呼ばれ、中国語で「歳」と「祟^{たたり}」が中国の発音が同じで年始に大人が子供に金を与えることで子供への祟^{たたり}りを抑えて抑え(压岁)、次の一年を平穩に過ごせるようにとの思いがあるのだそうです。

さて、8月には日本の地域によってこの「お盆」の時期に「年玉」ならぬ「盆玉」を子供に上げる風習があるのだそうです。夏休みの小遣いにはもってこいですね。しかし、年に2回はきついですね/(ToT; 夏に地藏盆がある地域では、お地藏さんを飾って子供にお菓子やお小遣いをあげたりする風習がありますが、

ひょっとしたらこれも「盆玉」に相当するのでしょうか？何れにせよ、子供には何度あっても嬉しいものですけどね。

この暑い夏に、寒い季節の話絡めた「盆玉」の話で少しは涼を感じたでしょうか？いやいや、来年の年玉を考えてサイフが寒くなった！？

おまけ 官僚^{ごうまん}の傲慢 ～「民」が作り上げる思い上がり～

過日、外務官僚が過程の事情で我が家に帰らず、約300日間ホテル住まいをし、その挙句、宿泊料約1500万円を払っていないとの報道がありました。「自分は官僚だから免除してもらえ」との意識が有ったのでしょうか。昔に聞いた話ですが、ある官僚がパーティに出席、帰る頃になると顔見知りの人に「君は車かね？何処まで帰るんだ？」と聞いたところ「車で堺方面です」と言う。「それは丁度よい。僕もその方面なんだよ。乗せて帰ってくれるかな？」とお願いしてきたのです。しかし、いざ車に乗ると「あっ、君、神戸方面へ行ってくれ。」と平気な顔で言うのです。その方は呆氣にとられたものの、仕事のカラミも有り、仕方なく運んだのだそうです。何と言うウソツキと傲慢・・・

官僚は最初から傲慢と言う訳ではないのです。覚えておられるだろうか？数年前に当時の厚生省の岡光事務次官が特別養護老人ホームに絡む収賄容疑で逮捕され、当時「おねだり岡光」として揶揄された事があります。彼の生家は貧しく、一生懸命勉学に勤しみ、東大に入学しました。彼は「自分のような貧しい家庭に何とか行政の手を差し伸べたい」という思いで厚生省に入省したのです。しかしながら省庁では、民間からチャホヤ持ち上げられ、誰もが頭を下げてくれる。色んな接待が当たり前。省内の諸先輩の日常を目の当たりにしたり「指導」を受ける。そんな中で、最初に入省した「志」は何処へやら・・・かくして傲慢な「腐れ官僚」が作り上げられるのです。官僚の取り込み（＝仕事の取り込み）は奥方をも丸め込むのが常套手段のようです。元防衛事務次官の守屋も同じ構図です。

「自分達は特別なのだ」という意識を植え付け続けるのは「民」の「官」に対する姿勢も大きな原因と考えられます。傾向として「日本国内ではえらそうにしている」ものの、対諸外国に対しては「弱腰な対処しか出来ない」のはその裏付けとも考えられます。内弁慶、お山の大将と揶揄されても仕方ありませんね。

このような体質に疑問を持つ官僚は尚早に見切りを付けるか、真の実力でわが道を行きます。

「民・政・官」一体の利権の牙城を崩すのは「民」が姿勢を正せるか？が重要なポイントとなります。真の「公僕」を取り戻すべく、自助努力もいいですが検察のような第三者にもがんばってもらいたいものです。あっ、検察庁や裁判所もお仲間かも～（´`）；

おまけ 携帯電話の電池残量は？

3段階で示されている電池の残量のおおまかな**目安**は・・・

3つ表示＝残量30%以上

2つ表示＝同10%～30%

1つ表示＝同10%以下

とされるのだそうです。2つ表示となると、あっと言う間に減る理由が分かりますね。現在は技術的な問題があるものの1年ほどしたら残量を“%”で表示する機種が出るのだそうです。

余談 100話目の前に

早いもので今回100話目になります。「余談」は「予断」でもあり、前もって出来事を予測する側面も持ち合わせています。その中では原稿を準備していたものの同じような内容が世にニュースとして出て問題となり、内容の価値が半減して蔵入りになった原稿がいくつかあります。今回の100話と次回の101話はそんな没原稿2本を復活させる事にしました。

第100話 平成20年8月19日

●**復活原稿1** いつの間にかすりかわった話 ～うそつき行政～（平成19年夏前予定だった没原稿）

東京オリンピックのあった昭和39年、日本は戦後を脱しかけ先進国の仲間入りを目指していました。その象徴が東海道新幹線（“夢の超特急”と呼ばれてましたっけか）と東名高速、首都高速だったのです。

オリンピック開催に間に合わすべく突貫工事をしたと聞いた事があります。その道路の建設にあたってはアメリカのフリーウェイ（無料の高速道路）を目指し、将来は無料で開放する筈でした。しかしながら、黙っていてもお金が入ってくるシクミを手放す事は無く^{てい}体のよい打と出の小槌とし、天下りの通り道となってしまうのです。乱脈運営で道路公団が大赤字なのに莫大な役員報酬をとったり借金と天下りの問題などを解消すべく小泉政権の下、表面的には民営化に追いやられました。そうは言っても当初国民への約束は「将来無料になる」であった筈なのです。民営化後も改革は殆ど進んでいません。「将来タダにする」が未だに料金徴収と言うウソを付き続けているのです。

また、道路に関連しては道路整備に使うと言う「大義名分」で昭和40年代に「道路特定財源」というものを決め、ガソリンの販売価格に上乗せする「暫定税金」^{ざんてい}を定めました。「暫定」と言う時限立法なのに40年ほどそのままなのです。それらの税金は「道路族」と呼ばれる議員並びに「国土交通省」役人達のサイフとしてなかなか手離しません。景気対策などで「減税措置」は暫定で、これらはすぐに元に戻ったり、いつの間にか以前より高くなったりしてるのに・・・（`´）

国家予算は、我々労働者や会社、特定物品などへの課税、消費税などからの税金が基本で成り立っているのですが、それとは別に「特別税・特別財源」の中から不明瞭な使途の予算が毎年当たり前のように組み込まれている、言ってみれば国家が詐欺をし、二重帳簿をしているようなものです。民家企業の詐欺行為や二重帳簿やB勘定（裏帳簿）は法や税務署に厳しく追及されまっせ〜。使いきり予算も裏金の温床で、問題となっています。

「消費税」にしても「アーウー」答弁で有名だった故大平首相が唱えて選挙で惨敗して撤回、その後昭和天皇の崩御^{ほうぎよ}のどさくさに紛れ平成元年初頭に当時の竹下内閣が成立させたのです。大平内閣では将来の高齢化社会に向けての「福祉目的税」と言っていました。当初の目的はどこへやら、目的は二転三転し用途がいつのまにかすり替えられ、今や別に健康保険料徴収の際に「介護保険」を40歳以上の勤労者から取るようしている二重取りの「大ウソつき詐欺」をやらかしています。「福祉目的税」構想は約30年近く前の事で、この事実はその頃から既に政府・官僚に将来の高齢化に対する認識が有った証拠なのです。しかしこの数十年間、将来に備え、溜める事をせずせつせと税金の垂れ流しをする事となったのです。わかっている何もしなかった罪は重いのです。きちんと対処していたら今日の破綻状態の財政や社会保険の崩壊も無かった可能性が大きいのです。大平内閣が謳^{うた}っていた「福祉目的」を前面に出す事で国民の理解を得られ易いだろうと言う当時の官僚の目論^{もくろ}みがあったとすればもっと悪質だと感じてしまうのは私だけだろうか？

素人の私でも、私が幼い頃から国が言い続けている事の矛盾に気付くほど国民をばかにした手口を続けているのです。が、誰も何も言えない・・・暗に抵抗者に圧力も掛けてきたずるい国家・政治屋・役人達^{れんめん}が連綿と引き継いできました。

国を導くべき、役人や議員が個人の利に目がくらみ、こんな事をしている国家はやがて外国から相手にされなくなり、破綻の道を歩みます。

顛末記^{てんまつ}：これを載せようと思っ^{ふんしゅつ}ている矢先に、ガソリン税問題が噴出しました。案の定、ガソリンの暫定税の使途は、とんでもなく国民をあざけている事は周知となりましたね。暫定なのに数十年続いていたのも問題となりました。かく反対している民主党の議員さん達も元は自民党の方が多く、過去数十年も容認し、恩恵をこうむって来たのによくあそこまでエラソーに言えたものです。

ちなみに官僚出身であった大平氏は生前、政治とは「明日枯れる花に水をやることだ」と意味深な事を言い残しています。

第101話 平成20年8月26日

● **復活原稿2** ワケ有り価格 ～安いものには訳がある安すぎるものにも訳がある～

(平成19年春予定だった没原稿)

昔は安売り屋の事を主に「ばった屋」と呼んでいました。倒産寸前でお金がない問屋・卸屋などが在庫の商品を現金化する、または倒産会社の商品をお金に替える為に金融業者に「格安」で売り払ったのです。その商品が流れて「ばった屋」の店先に並んだのです。「ばったり」と会社が潰れたところの商品だから「ばった商品・ばった屋」なのだと聞いた事があります。(ホントか?)

最近では「ばった屋」は死語となり、ホームセンター、100均など異様に安い品物が当たり前のように溢れた時代になりました。それらは、外国で作ったり1回使えれば充分と言う使い捨ての物が多く作りも素材も悪く、ちやちな物が大半です。もう曲がり角ですが、モノが豊かな時代の象徴です。それらの中には偽物を使ったり、混ぜ物をして体裁だけは「それらしく」見えるようにしている物も多いのです。

もちろん、コストダウンや今までと全く違う方法を編み出す、または全世界のあらゆる情報・方法を駆使して安くモノを作る薄氷の上に成り立っているシクミで供給されている「安くてもマトモ」とされるものもありますが大いに疑問です。

食べ物で言いますと、知り合いが出入りしている佃煮屋(工場)は、賞味期限切れ返品の期限シールを張替えて再出荷しているのだそうです。「再生佃煮」ですワ～ また、某独裁国家から輸入したハマグリは、日本の海水にチャプンと浸けると「日本産」に早変わりするのだそ～です。こんなまやかしが食品の世界ではまかり通っているのですね。

回転寿司でも、本当にこのネタはこの魚なの?と大いに疑問が沸きます。「代用魚」があるのも有名な話です。「ししゃも」の殆どが北海道産でなく、カナダ産のよく似た魚なのは広く知られている事ですね。

いつも感じているのですが各地の「特産品」「名産」と言われるものが不思議と日本全国に出回っています。これだけ出回ったら、そこの特産品は間に合わんやろうし、もうとつくに乱獲で採れへんやろ～と思っています。ましてやこんな安い価格で売れる筈もないよな～って思っています。かくして、さまざまな偽物を引っ張ってきている事は充分に考えられます。こう言った製品・食品流通の中で我々は生きなければならないのでしょうか?

こう言った無理な価格やシクミの継続はやがて立ち行かなくなると常々思っています。

顛末記: これを載せる前に、食品偽装問題が噴出してしまいました。また、中国産の食品も大きな問題となりました。更にこれだけ世間を騒がせていても、まだやっている会社が次々に出てきており、根深さを感じます。また、大手小売業が消費者に植え付けた悪しき消費動向もこの問題の根幹の一つだと考えます。

おまけ 「余談」3年目

「余談」も来月から3年目となります。今までは、できるだけ日本語を使い外来語を如何に日本語で表現できるかに腐心してきました。それは日本語を大切にしたいと言う考えに基づいています。しかし、時には無理に日本語を使う方が分かりにくい場合も有り、今後はそれに捉われる事無く自然な外来語の使用を心がけたいと思います。また長かった文章もできるだけ短く心がけたいと思います。(昨年も同じ事を書いてましたっけか…^^;))

常に10～20本の原稿を準備しており、予定している題材も60本はありますのでまた少なくとももう1年は何とか続けたいと思います。

人に良いものは、本当に良いのか？

全体教育資料 平成20年5月23日講義より

医食同源という言葉は、4000年の歴史をもつ中国に伝わるもので、古くは「薬食同源」ともいわれ、健康の道を深く突きつめたところに生まれた言葉です。

その意味は医も食も源は同じ。すなわち、薬は健康を保つうえで毎日の食べものと同じく大切であり、おいしく食べることは薬を飲むのと同様に心身をすこやかにしてくれるということを伝えようとしています。

かつて中国の文化はシルクロードを通じ、東西にその影響を及ぼしました。その身近なものの一つに「茶」と言う言葉があります。日本でもお馴染みのこの単語は、西側に伝わり「TEA(ティー)」と言う言葉になった事からも影響があったことをうかがわせます。

●似せ（偽）食品の氾濫

「ししゃもに」代表される代替魚はアラスカ産の魚で、本当のししゃもは北海道の語句一部でしか捕れないのです。もし日本全国で売られているししゃもが北海道産の本物であれば、あっという間に絶滅となるはずですが、また、アナゴにも代替魚があり食感は少し違うようですが知らず知らずの内に身近になっているそうです。フライの白身の魚もタラなどでは無く、さまざまな海で捕れた私たちが名も知らない魚が多いのだそうです。

日本のスーパーで売られている各地の「特産」「名産」は、本当にこれだけの量が全国で販売されればあつという間に無くなってしまうものも多いでしょう。偽物がまかり通っていると思われまます。

また、人工イクラ、人工キャビアなども多くこれらは接着剤の研究で偶然出来たものをこれらに応用したものです。人には無害なものを使っていると言われますが時にはホンモノ以上にホンモノらしい人工食品の代表がイクラと思っています。私たちには、見分けが付きにくいものです。

それらは便利な様に、安く安定的に食品を提供しようとした結果なのではしょうが「偽装」はイケマヘン。

●ファーストフードなどの弊害

「イラク戦争」と「ブッシュ大統領」批判の映画「華氏911」で有名なドキュメンタリー映画監督マイケル・ムーア氏と言う方がおられます。その監督が撮影した「スーパー・サイズ・ミー」と言う実録映画があります。それは、マクドナルドのメニューを全て満遍なく30日間食べ続けるとどうなるか？と言う自らを実験台として撮影した映画なのです。かくて、それを続けた結果、肥満はもちろん、内臓異常、メタボリック。仕舞には中毒となってしまったそうです。それが無くてはイライラし、麻薬の状態になったのです。似たような実験をされた日本人がおられます。元警視庁の刑事さんです。その方は自らをファーストフード漬けにする実験をされました。ビックマックのような量の多いものを1日3食、食べ続けたのだそうです。その結果、怒りっぽくなり、就寝時においても妙に気分が昂ぶって眠りにつきにくい。実験開始後40日目頃には遂に蕁麻疹まで出てきて中止に至りました。

なぜそのような実験をしたのか？経験的に取り調べの際、異常な事を言ったり態度をとったりする犯罪者の大きな共通点ひとつにファーストフードやスナック菓子を主食としていた事実があったのです。そこでその事を実証しようと自らを実験台としたのです。

その方は犯罪を引き起こしかねない食品添加物などの化学物質、残留農薬が影響を及ぼしているのでは無いかと考えておられます。少年から分別のある大人、老人などの犯罪が増加しているのもこんな事が背景の一つかも知れません。理解不能な犯罪が増えています。

また、柔らかいファーストフードには幼い頃からそれを食べ続けるとアゴの発達不十分で小さくなり、歯並び異常を始めそれらが及ぼす慢性病をもたらす落とし穴もあります。アゴは、硬いものを噛む事により正常に発達するのですが、柔らかいものを食べ続けると十分に発達せず歯だけが正常な大きさになろうとして小さいアゴで発達する事により歯が込み合った状態で歯並びが悪くなると言われています。それによって引き起こされるのは、慢性の偏頭痛、蓄膿症、集中力の低下、咀嚼不十分による胃腸病などが言われています。

私の小さい頃のおやつと言え、煮干やすするめなど噛み応えのあるものが多かったように思います。最近ではこの反省に立っているのか「噛み応え」のあるお菓子も出てきています。

ちなみに10年ほど前の統計によりますと、日本人1人当たり年間4.5Kgの合成保存料、人工着色料、人工甘味料などを食べていたそうです。最近では減っているのでしょうか？

●中国の一面

「医食同源」の国、中国では今やその陰もなく、さまざまな偽食品、民工米と言う毒カビの生えた安い米、有抗乳と言われる抗生物質をぶちこんだ牛乳、下水溝油ラーメンと言う捨てられるような工業油で揚げた即席めんなどさまざまな有害食品が売られています。それらの被害もニュースで伝わります。富裕層は日本の食材を買い求めるようになっていました。

また、環境汚染も深刻で、障害児の出生率が2001年には0.105%だったのが、2006年には0.145%までに跳ね上がっています。これは単純に30秒に一人の割合で何らかの障害のある子供が生まれ、死亡率も高いとされます。この数字は年々悪化していると警告されています。それらのあおりを受け、率は中国より遥かに少ないものの日本でも同様の傾向が見られます。

●人にとって便利・優しいは本当に良い事だけか？

ストレスは良くない事と言う一般的な認識がありますが。しかし、筋肉は鍛えないと発達しないように、人には適度の負荷が必要と思います。

先ほどの「柔らかい食事」がもたらす弊害のように、硬いものをある程度食べて適度な発達を促す。発育の過程で、本来自然であれば当たり前のように受けるストレスが文明の発達によって緩和され、それによる弊害もでて来るでしょう。

・赤ん坊と冷房

夏場、暑いから可愛そうと言って冷房をひんぱんに使いすぎると、汗をかく必要が無いので汗腺が発達せず、大きくなっても汗をかかない代わりに体温調節ができず、体温異常を引き起こす。また、汗疹（あせも）が出来ないため、ストレスにさらされず皮膚や体の抵抗力が弱くなる。

・抗菌製品

人は日常生活で、雑菌にさらされています。これら抗菌＝清潔も大切なことなのですが「潔癖症」のような事をし続けると、人が本来持っている抵抗力が弱まる可能性があります。学者も見つけていない雑菌の人への良い影響をも排除する可能性も考えられます。しかし「地べたリアン」と言う若者もいて、きれい好きなのかどうか良くわからない世の中です。

・滑りにくいタイル

最近、滑りにくいタイルが開発されたそうです。風呂場でこけた経験もある人がおられる事でしょう。市川海老蔵も昨年、風呂場でこけて大ケガをしました。特定の場所でそのタイルはいいでしょうがあらゆるとこ

ろでそれが使われれば「タイルは滑るものではない」という意識が植え付けられ、昔ながらのタイルでは無防備になって大ゴケする事もありうるでしょう。

・紙おむつ

これが世に出てから約30年。発売当初に気になった事が何点かあります。赤ん坊は泣くのと眠るのが仕事。もちろん食べる事もですが、「布おむつ」では、お漏らしをして「気持ち悪い」と感じ、それを親に知らせる手段の一つとして「泣いて知らせる」のですね。おむつを替えてもらうまでの間「気持ち悪いよ～」と泣いて信号を送り続けるのですが、それで肺などの呼吸器が発達。親がおむつを替える間、親が話しかける事により言葉が発達し、親子の絆が深まるのかもしれませんが。また、替えてもらう間は我慢しなければならないのです。人としての自我が出来る以前に知らず知らずの内に「我慢」が身に付くのでしょうか？だから、最近の子供は基本的な我慢の限界点が低いのかも知れないとも考える事があります。胸が異常にへっこんだ肺活量の少なそうな青年が増えたのも肺の発達が未熟なののでしょうか？

便利で子育てには欠かせないものですが、便利さと引き換えに失ったものに気付いた親は知らず知らずの内にそれを埋める努力をしているのでしょうか。

・有機農法

農薬を使わず自然の力を利用して農作物を収穫する方法です。アヒルや鴨などを使って田んぼの害虫などを食べてもらいつつ足で田んぼの泥をかき混ぜ、酸素が稲の根っこに行き届くようにして稲の成長を助けつつ無農薬で米を育て、鴨も食用に出来ると言うものです。これが「合鴨農法」と言われるものですがこれと共に導入された雑草の繁殖を防ぐ「アゾラ」と言う浮き草が田んぼ以外の池や堀に大繁殖し、水と酸素、太陽光をさえぎって、その水質が悪くなる事が起こっています。この浮き草は、じわじわと日本を北上しているとの事です。

また、食用として摩周湖で養殖していたアメリカ産のウチダザリガニは、阿寒湖に繁殖し「マリモ」を食い荒らす被害がでています。

いずれも、よかれと思ってやったことが裏目にでているようです。

・携帯電話の記憶機能

私たちの生活で欠かせなくなった携帯電話ですが、昔は電話番号は頭に記憶していました。今は便利になって番号を憶えている人はどれだけおられすでしょう。

人の機能は、不要になれば退化する傾向があります。憶える必要がなければ、本来持っている記憶力の減退が心配です。

ちなみに、小腸には「柔毛」と言われる栄養を吸収する柔らかい毛のような器官があるのですが、病気などで点滴で栄養を取り続けるとそれが無くなってしまい、病状の回復後いきなり食事を取っても消化器官は働かず体調を崩してしまいます。だからこんなんな場合「重湯」から食事を始めるのです。

人の機能は筋肉でよくわかるように使わないと退化します。「人は易きに流れる」と言われます。便利になった半面、失いつつある本来の力などを弱めぬよう適度な負荷は必要なのでしょう。